

家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

第五十六卷 第十号

32.9.6-



10

トッパンの 人形絵本



東京日本橋茅場町
トツパン

各
—
〇〇円

★ちひくろ・さんば
★ぶれーめんのおんがくたい
★やん坊にん坊とん坊

かわいい人形を美しい舞台にのせて天然色写真で撮影して作った楽しい人形繪本

形繪本

幼児のための紙芝居

九月一日全国一齊配本キヌト紙芝居全集

(全二十四卷·各卷十二枚·定価二六〇円
全巻定価六、三四〇円·毎月二巻宛記本)

おやまのおんがくたい
お山の上では、おんがくかいがひ
らかれようとしていました。小鳥
さんやたぬきさんなどいりんなど
うぶつたちが集まっています。
わしのうじは、そのま
まほうつかいが、まい年女の子をひ
聞いたりからついていくと、「そこを
ほうつかいをして……」

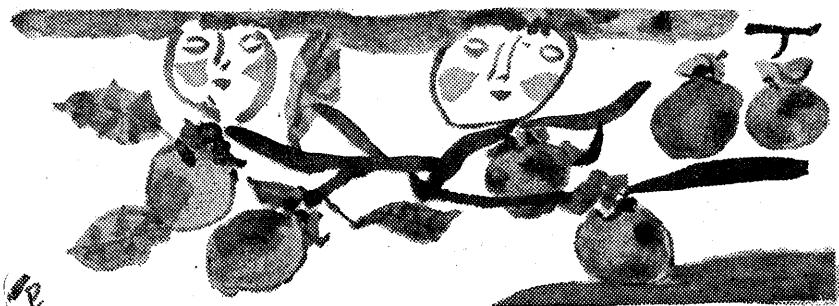
動物名作物語 紙芝居全集
(全十卷・各卷二十四枚・定価五〇〇円)

(全十卷・各卷二十四枚・定価五〇〇円
全巻定価五、〇〇〇円・毎月一巻宛配本)

黒馬ものがたり
クロは毛なみの良い、りこうな馬
でした。いろいろな人の手から手
へ渡つてはいきましたが、クロは
いつしょうけんめい働きました。

東京都渋谷区千駄ヶ谷四ノ七一四
電話(34)一四五八二三二七三四〇〇
振替 東京一二九八五五

教育專刊



幼児の教育 目 次

第五十六卷 十月号

表紙 武井武雄

- 幼児教育雑感 波多野完治 (2)
歐米の家庭と子ども 吉田昇 (6)

環境と保育

- 保育日誌から 川崎千恵 (12)
狭い園の保育 秋田好枝 (14)

施設と保育

- 豊田美雄子先生 原田春子 (17)
倉橋賞を受賞して 高橋恵子 (24)

水戸大会をおえて

- ハワイの幼児教育 小林操 (25)
対談 堀堤安省 (20)

幼児教育実際指導研究会分科協議会より

- 幼稚園教育の効果をたかめるために 林子江 (26)
体育をどのように扱つたらよいか 室谷幸吉 (40)

童話を書く子どもたち

- ACEI一九五七年度研究大会報告 桜井たか子 (37)

デンマークの旅

- アルワイン先生をおしみて 平井信義 (52)

保育雑誌より

(58)

編集主幹 及川ふみ 編集主任 津守 真

協力委員 牛島義友 斎藤文雄 多田鉄雄 波多野完治 山下俊郎 (五十音順)



幼児教育雑感

波 多 野 完 治

去年から今年にかけて、種々の変化が幼児教育の間に起つてき
た。その一番中心となるものが、"幼児教育の危機"の問題である。
それについて少し考えてみようと思う。

幼児教育の危機の問題を最初にとりあげたのは坂元彦太郎氏であ
る。今年の「幼児の教育」四月号に、"幼児教育の危機"を坂元氏が
とりあげたのがはじめて、六月号に秋山ちえ子氏が"幼児教育の危
機の反省"を書いており、七月号で牛島義友氏が"幼児教育の危機
をよんで"というのを書いている。私も、坂元氏の論文を読んで感
じるところがあり、書きたいことがあつたが、忙しくて書く暇がな
いので、ある雑誌で坂元氏と対談することにした。

坂元氏は、幼児教育、いわゆる幼年教育を人生の教育の最も重要なものと考えてゐる。幼年教育とは、小学校二年までと幼児期の全體を含めて考えたもので、この時期が最も大切であると考えるのである。坂元氏は、文部省におられる時から、こういう風に考えておられ、岡山大学に行つてからは、充分その構想を生かして幼稚園を創り、また、幼児教育のために種々の先進的啓蒙をやつていられたが、今年の二・三月号から、"幼児教育の危機"の問題を非常に心配され、その結果がこの論文となつてあらわれたのである。

"幼児教育の危機"は幼児数が減つたことが直接には原因である
が、それに派生して、いろいろな問題が起つて來た。このことが、
坂元氏に"幼児教育の危機"という印象を与えた。園児が少くなつ

たことは、たださえ園児過剰に悩んでいた現場の教師には、危機どころではなく、立派な教育をする機会が与えられた訳である。今まで公立幼稚園には、五十名以上も幼児を収容しているところがある。このような状態で良い教育のできるはずはない。むしろこの園児の多かった時こそ危機であり、減った現在では軌道にのせる最も良い機会である。これが“危機”といわれるのは、どういうわけでであろうか。

私の考えるところでは、わが国の幼児教育が現在過渡期にある当然の結果である。わが国の幼児教育は政府の保護によつてなされたのでなく、民間の本当に子どもの好きな人によつて育てられた。すなわち、私立幼稚園、あるいは野党的幼稚園が幼児教育に当つてきた。この意味において、幼児教育はわが国の文学や映画と同じような精神的状況を持つと考えられる。わが国の文学は政府の保護なしに育つてきた。たとえば、夏目漱石は全く保護を受けておらず、幸田露伴は後になって文化勲章を受けてはいるが、それは、それを授けたほど長生きをしたためである。今日の映画にしても政府の保護は受けていない。

幼児教育に対して、昔は“幼児は教育すべきものでなく放つておけば良く、小学校にはいってから教育すれば良い”という考え方の小

学校教師がいた。現在でも少数ではあるがいると思う。かれらは、“幼稚園では余計なことを教えない方がよい”と考える。

しかし、幼児尊重の思想が大事にはぐくまれていった温床は、キリスト教的ヒューマニズムであつた。ゆえに我が国の幼稚園発達史はキリスト教なしには考えられない。

しかし、世の中の人は、次第に動かされてきた。その影響で戦後になり空前の優勢をきたした。これがいわゆる幼稚園ブームである。

ブームとなつてからの幼稚園には種々の問題はあつたが、野党的精神といおうか、子どもと密着して行われたのだから、わが国の幼児教育は小学校以上の教育とは非常に異なる。小学校以上の教育は、昔は壮丁教育（軍隊）の予備教育的性格があり、大正以後、その傾向が強くなってきた。太平洋戦争以後は殆んどまったくこの性格を持つ。このように上からの要請によつてなされたのが、小学校教育だが、幼児教育はそうでなかつた。だから幼児教育がヒューマニストたちに魅力があつたといえる。このような幼児教育を発展させたのが、亡くなった倉橋惣三氏だつた。彼の自由主義的教育思想に対して戦争中に迫害が加えられたことがあつた。これは極端な形のときは幼稚園無用論とさえなつた。しかし、それにもかかわらず戦争中幼稚園をともかく温存することができたのは、彼の政治力と

人格の賜物であったといえるが、このような野望的ヒューマニズムの精神が戦後のブームで崩れてくる傾向がみえた。これは戦後の社会要求が、幼稚園教育を義務化しなくてはならぬというところまで一般の人々を啓蒙したからである。幼児教育に特殊の制度を必要としたのは、三百年も昔から先覚者が考えていたことであるが、今日では、それが極く一般的な性格になってきてる。凡ての父母がこの自覺をもつてているのである。これには、社会状況の変化が反映していることを忘れてはならない。現在、世の中には、昔のような家庭がなくなり、新しい家庭形態がつくられつつある。これは、家庭の崩壊、家庭の変化などといろいろの名で呼ばれるが一口にいと、この家庭は“孤独なる群衆”と呼ばれるところの社会で、社会の凡ての人は群衆であるのに、その一人一人の間に連帯意識はなく、皆、孤独である。この孤独な群衆を大衆社会（Mass Society）といふ。大衆社会を正しく運営していくためには、家庭教育だけでは不充分で、特別の施設がいることになり、これが幼稚園の必要性を一般の人たちに考えさせるようになった。幼児を幼稚園に入れる方が良いか否かの質問をよく受けるが、これは、特別な施設が必要なことは知っているが、現存している幼稚園の形態が民主的の社会を発展させていくのに充分な教育形態をとっているか、という疑問からで

ある。現実の幼稚園教育をもつと異った民主的な世の中に発展させていくような教育形態を備えている幼稚園もあるが、そうでないものもある。特別の施設が必要だというのは、父兄の間に啓蒙が普及してきたからだと思う。それにもかかわらずおどろくべき反時代的な論文が「幼児の教育」六月号に秋山ちえ子氏によつてかかれている。「幼児教育の危機に対する反省」という題で、「幼稚園というものは、普通の子どもにとって必要でないのだ。」と述べており、次の文章はそれを裏付ける。「幼稚園に行く子は、一人っ子で、幼児の社会生活が十分できないとか、環境が悪い子などが主になるのが理想ではなかろうか。」

今日のマス・ソサイティを悲しむべき事態であると感じ、何かの形でもう少し良いものにしていかねばならないと考える人たちは、このような“幼稚園教育無用論”には多分同意しないだろう。この論文は「今の世の中は家庭教育が充分に行われれば、幼稚園教育は無用である。すなわち、幼稚園は家庭の補助であるというのである。」が今の幼稚園は独自の教育機関であり、今日の近代社会にはない、必要なものである。これがなければ子どもの円満な人格は形成されない。これが今日の一般的な考え方であろうとおもう。幼稚園にい

かない子でもいた子とおなじように小学校で成功するではないかといわれるが、それは小学校で幼稚園の肩代りをしていくのである。本当は幼稚園でしなければならないことを六年間少くとも小学校三年まで一生懸命やっている。このことは望ましくない。この点から考えると幼稚園の必要性は今日わかつてきているが、この必要性とそれに応ずる社会的施設、財政的援助が不足しており、両者のギャップが“幼児教育の危機”になつたと私は考える。“幼児教育の危機”はそのギャップが存在する限り当分続くと思う。これをうめる方法としては、“幼児教育”はどうしても必要であり、これをやつておかなければ、子どもの人格が非常に育ちにくいという基本原則をはつきり自覚しておく必要がある。もちろん、特殊の子どもは立派に成長するだろうが、その場合には子どもも、教師も苦労しなければならない。本質的には幼稚園の必要なことを関係者が理解してその認識に基いて、実際に世間の人々に示していくことが必要であるが、今日それが不十分のようと思われる。スクールバスで園児のおくりむかえをするといった未しう的ないことよりも、実際に幼

稚園の中の教育形態が進むことが必要で、これには幼稚園教員の学識、教養、教育的識見の向上が必要になってくる。昔は、小学校教員よりも幼稚園教員の方が高かつたが、今日では必ずしもそうではない。社会の要求があるので、小学校よりもすくない教養で幼稚園教員になる。ここにもずれがあるのかもしれない。

近頃“義務制幼稚園”ということをいう人がいるが、私はそのようには必ずしも考えていない。これについては長くなるのでここで述べないが、法律でもって教育を義務制にするのではなく、父親・母親が“幼稚園が必要だ”と感じるよう、両親を啓蒙しなければうそである。日清戦争の頃は、とくに百姓の家庭では、親は、子どもは学校へ行つても何の役にも立たず、行かせる必要はないと考えていた。今日では農民でも小学校教育の大切なことはわかつている。今日の小学校教育のように、どうしても必要だと考えさせる段階までいかなくてはならない。それには、幼児教育の必要性を父兄に本当にわかつてもらう方法をとることである。義務制という法的やり方で急場をきりぬけようとしてもうまくいかない。大事なのは、父親、母親の心の中である。

幼稚園の中の教育形態が進むことが必要で、これには幼稚園教員の学識、教養、教育的識見の向上が必要になってくる。昔は、小学校教

×

×

×

×

×

歐米の家庭と子ども

吉田昇

私は一年ばかり、ヨーロッパ・アメリカへ行って、日本に帰つて約二ヶ月になります。何かそれについて話せということですが、一般に外国にいった人が、帰つて来て、その話をするのに、違う点ばかりいって同じ点を云わないといわれています。もちろん、同じ点がないわけではないのです。

私も、アメリカ・ヨーロッパの子どもと家庭の関係を私なりに見て来たことを述べますが、やはりこれは同じ点より違う点ばかりいうことになってしまいそうです。歐米の本当の姿とはかけはなれたものになるかもしれません、私は、私なりに印象を話したいと思います。

歐米の家庭も一軒一軒違うし、国によって、職業 地位などの社会的条件によつても違ひ一概には云えません。私のいたのはアメリカが主ですが、ときどきヨーロッパについてもはなします。

夫婦と子どもが一人ということになります。また家の構造が違い、基本になるものは個人の部屋で、個人の部屋には鍵があり、いつも鍵を持つっています。部屋の外でドアを閉めると自然に鍵のかかるドアがあるて、それで、知らない旅行者は失敗します。もしそういうことになつたら I kept my key in my room というのだそうですね。ある人は、部屋の外でると鍵がしまつてしまつたので、試行錯誤法でいこうと思い、廊下をよく調べると、もう一つドアがありました。それをあけてみると階段に出ました。それを登つていくとまたドアに出ました。それを開けて屋上に出てその戸を閉めると、今度ははいれなくなつて非常梯子で降りたといふ話まであります。そういう「鍵」が生活の中心となつています。家の構造は個室にわかれていて、子どもが二人あれば一人一人が部屋を持ち、夫婦の部

屋もあります。個室を持つことが人間の成長に関係があり、子どもの成長に関係があります。

アメリカのような個人主義の国では、自分自身で自分のことを処理します。日本と違うのは、家と家との間に垣根がないことです。廊下と往来が続いているのです。個人の部屋が表からしゃ断されていて、居間は外へ続いているので、居間から出ればたとえ家の中で、ある意味で公共の場所なので、部屋の中だけが、どんな服装をしていても良いところなのです。日本とアメリカの人間の生活の違いは、個室があるということ、垣根がないということで、そういう家のなかで高度の施設・設備を持って、高い程度の生活をしています。

アメリカでは国民所得が、日本が一人七万円に対してアメリカが七十一万円。つまり日本の十倍です。スエーデンではだいたい六倍、イギリスが約四倍半、フランスも四倍半、ドイツが四倍です。歐米では、家庭の道具はかなり揃っているのです。たとえば自動車について申しますと、アメリカでは“One Car Family”といつて一台しか持っていないのは貧乏ということで、たいてい二・三台は持っているのです。自動車は非常に安く、私の持っていたカマラより安い自動車にたびたび乗りました。二十五ドル、日本のお金で三万八千円の自動車もあります。それでも動いているのです。車が家にあり、電機冷蔵庫、テレビ、もちろん電機洗濯機もありドライヤーもあります。アメリカでもテネシーの貧乏な農家には、暖か

い湯もなく、風呂もなく、ところによつては、電気もないところもありますが、一般的にいわることは、日本よりは高度の生活をしていて、そのなかで個人というものが尊重されるということです。個人がはつきりしていることはことばにおいてもみられます。小さな子どもでも「おかあさんは外出している」というのにも「彼女は外出している」といいます。私と彼も区別されます。全て主語をつけ、私は——。私は——。といいます。人間の数が少ないので、人間の力がかなり高く評価されます。人を待たせる、仕事の時間を長くする、人の手をかりる、ということは大変高い価値を持っています。もつとも、アメリカの農村では、この頃、子どもを多く欲しいという人がふえています。私の行ったある農村では十一人の女の子がいて、最近男の子が加わって一ダースもの子どものいるところもあります。しかし、これは例外で、いっぱいには子どもが少いし、子どもひとりひとりは独立の個人と見なされています。したがつて年をとった人でもよく働きます。若い人に世話になるのは不本意であります。しかし、これは例外で、いっぱいには子どもが少いし、子どもひとりひとりは独立の個人と見なされています。したがつて年をとった人でもよく働きます。若い人に世話になるのは不本意であります。これは日本ではありません。そういう時、一緒に住みたくないのでですか」と聞くと、一緒にすみたいが、私が外にいる方

が子どもが楽しく暮せます」というのです。

また家庭の主婦についてみますと、教養の程度が日本より高いの

ますと、大学へ行く人の全体の数は日本の五倍、大学生のなかで女性の占める割合は、日本が短期大学を含めて二一%なのに、アメリカでは三五%です。日本の五倍の数があつて、しかも大学へいく人の割合が多い。人口は一・五倍ですが、結果において七倍ぐらいが大学へ行くのです。ヨーロッパでも日本より高く、イギリスでは、大学へ行く婦人は、男で大学へいく人の二十七%です。その上家庭のなかでも本を読む人が多いことです。機械があり設備があるのでは、洗濯や買物に時間をとられないのでしょうか。労働省の調べでは、日本の主婦は一日四十七分を買物に使っています。アメリカでは、買物は自動車でいきデパートなどで、一週間あるいは一月分の買物をして、必要なものは冷蔵庫にいれて置くのです。お掃除でも機械があつて時間がかかるないです。だから本を読むひまがあつて、アメリカで本を購読するのは男の人よりも女の人に多いのです。実際の知識も主人は専門のことは良く知っていますが、一般のことは奥さんの方がずっとよく知っています。それは家についてテレビを見たり、ラジオを聞いたりする機会が多いからです。

またこのようなことから婦人の社交活動が活潑で、婦人でクラブに入っていない人は統計上からみても、ほとんどいません。多くの人がなにかのクラブに入り、電話をかけてすぐ集るのです。家庭の主婦でも成人教育へ出席する人が多く、私がサンフランシスコのマリナー・ハイスクールでみた成人教育は、若い人だけが勉強するのではなく、年取った人々が主になって勉強していました。私が行ったときは、裸婦を前にして写生をしているグループもあり、スペイン語を勉強しているグループもありました。その大部分が主婦なのです。また働きに出る主婦も非常に多いのです。日本の場合も非常に多くの人が働いています。女人人は恐らく歐米より多く働いていると思います。統計によると全労働人口の四〇%が働いています。ただ日本と欧米とは働き方が違うのです。日本では、農業・商業とかの自家営業の手伝いが多いのです。草取りをしたり、田植えをしたり、店頭に出て小売りをするという形の働き方が多いのです。日本の統計によると家族従業員が六〇%になっています。アメリカでは全労働人口の二七%が婦人でその八八・四%が非農業者となっています。またエーテンの働く婦人が、工業が二七・八%、商業が二七%、一般的事務が二二%、家事従業員が一二%、農業が七%の割合になっています。家庭の中で働いていると、自分は働き人であるという意識よりも、手伝をしているという感じになってしまい

欧米において、婦人が働きに出る場合、日本のように腰掛けて自分のドレスを作るために働き、すぐやめる、というようなことは少ないので。働く人の平均年齢は、日本よりヨーロッパの方が高いです。アメリカでは、ドラック・ストアーというのがあります。これは軽い食事をするところですが、朝から男がいっぱいです。つまり朝飯を作らない奥さんが多いのです。家庭の三〇%が朝飯をつくりないので食堂がこむのです。また夫婦で働いているのに、日曜は

店が閉まっているということから通信売買が発達していますが、こんなところにも主婦が仕事をもつてゐる実態が伺われます。

もう一つ日本と違うことは、結婚年齢の低下ということです。一九五五年のアメリカの結婚年齢の平均は男が二二・七歳、女が二〇・二歳。これを一八九〇年に比べると非常な開きがあります。すなわち一八九〇年には男が二六歳、女が二二歳でした。また現在イギリスの結婚平均年齢は、男二三歳、女二一歳です。どうしてこのようないいが悪いというようなことはないので、平気で人前で話します。

にお見合結婚はありません。自分で探すので、同級生が多くなるのです。また、男が女を食べさせるという観念がないということも一つの理由でしょう。私がシカゴに行った時、日本のしきたりに従つて隣の部屋に挨拶にいきました。そして、「明日からもよろしく」というと、その人は変な顔をして、明日からは会えないかもしれません」と聞くと、「自分は働いているから」という。だんだんわかつてきたのは、その男には、ガール・フレンドがいて、はじめは同級だったのですが、ガール・フレンドの方は、二年程上の学年になっているのに、彼の方は働いてるためにずっと原級にとどまつてゐるらしいのです。男が働き、女が勉強しているのです。いわゆる苦学生かと思つて生活みると、部屋の中にはL・Pレコード・ハイファイのラジオ・カラー映写機等など、ぜいたく品を持っています。約一年すると女が卒業するから、そうしたらこんどは結婚して奥さん働いてもらつて自分が進級するというのです。イギリ

スでもアメリカでも非常に若い奥さんが多くいます。イギリスで三分の一の花嫁は二〇歳以下ということになります。だから十六歳の花嫁もいるわけです。こういうことに関係があるかないかは知りませんが、離婚もかなり多いのです。イギリスは国柄からいって離婚を禁じてゐるので少ないのです。日本は、一〇〇〇人にに対して〇・八四件で、イギリスは〇・六六件です。しかし、アメリカの方は二・四件となっています。アメリカでは、日本のように離婚すると世間で悪いというようなことはないので、平気で人前で話します。以上が家庭のりんかくで、この中で、子どもが育つのです。

このようなことから考えられる日本と歐米との違う点は、第一に自分がはつきりしていることです。子どもの時から私と彼とがはつきりしてゐます。遠足の場合などでも彼はこう考えるが、私はこう思うというのがはつきりしてゐる。人が行くのなら自分もいく、といふのではない。家中の中でも一人一人が、一人前の人物なのです。ですからお客様がきた時、まっさきに子どもにいたるまで紹介します。その紹介の仕方も「これが家のものです」などというのではなく、その人の名前をあげて一人一人を紹介します。もちろん一人一人が意見を持っており、家の中でも話し合いがあり、その結果まとまるのです。理屈が家の中でも通ります。日本の場合のように理屈はよそ行きのものだという感じはありません。日本では門を入り、

桓根を通ると家の中で、外で理屈を云つても、家の中ではまあまあのことがあります。したがつて歐米では、理屈が生活の中で生き

ているということが、日本と違うところです。

第二に、能率 Efficiency が家中の中にもあるということです。子どもを叱るにも日本のように「何々してはいけません」というのではなく、「そういうことをすると、お母さんの手が多くかかる」という風に云います。もちろん家庭の礼儀作法はかなりやかましく、食事の時間に遅れないようにというのにはあります。これもしきたりとしてではなく、お母さんの手を二度使わないということと関係があります。日本は、食事におくれないよう、というのは作法として考えて、おくれないようにと叱るのです。要するに能率がいろいろのことについて考えられています。日本のように世間ていはあります。日本では、お客様が来ると、家の中のことはさておいて、みえで御馳走をします。アメリカでは、ごちそうするにも家に前に買つてあつたハムがあつたから出すといった具合にします。アメリカでは家の中の能率がお客様のところへ出てくる能率です。日本のようにわけのわからないものではなく、子どもにもわけのわかる能率なのです。

第三番目は、家庭の中に余暇生活が多いということです。日本では、とくにアメリカから帰ってきて気がつくことは、夫婦間の会話が少いということです。先日若い夫婦が来て話したのですが、主人は勧め先きで映画を見た、主婦は買物先きで映画を見た。これが私の家で話しているうちに、お互に同じ映画を見たことを知った、といふわけです。私は、夫婦というものは、良く話し合うものだと思い

ます。日本では、家の中で生活を楽しむことに非常な無理があります。家中での会話の量を比べてみると日本よりアメリカの方はずっと多いのです。ことに親同志の愛情の表現が会話の中に出で来る。そういう中で、子どもはガールフレンドから手紙をもらつたら、どういう表現をするか、親の話の中から知り、親も手紙の内容をもつとうまい表現はないかと一緒にみるようなことがあります。

遊ぶことが悪いという意識はない。私がなぜこうすることを云うかというと、日本と対比して考えているからです。日本は家中にそういう生活がないので子どもがヨーロッパ・アメリカと比べて違う立場にある。日本の子どもは、何か競馬の馬のようなものだといふことができる。奥さんは、非常に能率が悪く、おいしいものを作つても皆ほんともいってくれず、まずいものを作ると、文句をいわれる、そこで期待を全て子どもにかけます。奥さんは馬券を買った主人のようなもので、そのかけた子どもについては、学芸会の場合も自分が出るのでなく、その子どもが出るのに親の方が大きわぎをします。それは、入学試験にもみられます。もし馬に自殺することができたら、競馬の馬には自殺が多いでしょうが、日本では青少年の自殺が多い。アメリカにはそういうことはきわめて少いと思います。お母さん自身が社交の場を持ち、夫婦でも話し会えるから子どもに期待をかけないですむのです。女の子がボーイフレンドから手紙をもらつてもひがんだりしないで一緒になって考え、自分の経験を話し、最もうまい内容を考えてあげます。私のあつた二人は、自

分の若い頃のことを子どもに話して聞せていました。私は大変良い話だと思いました。あれなら作文の能力・表現の能力がうまくなると思いました。私は日本の学校教育の国語能力はアメリカに比べ劣っているとは思いませんが表現能力がない、そういう点で日本は劣っていると思います。

次の事柄は青少年犯罪の問題であります。これは、アメリカの家庭で大きな問題です。一〇〇万人の青少年犯罪があるといわれます。

私も昨年の夏少年感化院にとまって観察しました。そこで母と子の手紙のやりとりしたのを見せてもらいましたが、日本と違う点は、子どものことを全く考へない母親がいることです。親が何度も離婚したような人の子どもへの手紙は、「元気で暮していますか。この間行けなかたのは、誕生日を忘れてしまったのです。誕生日を知らせてください。」といった他人にあてたような手紙です。家庭において個人・個人が非常に明瞭なために、愛情の欠損が起つたときには全く一人になってしまいます。青少年犯罪の七〇%が欠損家庭です。この点は、日本とアメリカの大きな違いだと思います。

日本には酔っぱらいが多い。抑圧されているので酔っぱらうのです。皆で酒を飲み、歌ったり話したりしたがるのです。日常生活がうまく行かないでの酒でごまかすのです。本当に酔っているのではありません。だから落語にあるように、道を酔つて歩いても、交番の前ではちゃんと歩くといったことがあります。アメリカには酔っぱらいは見たくても見られません。その代りアルコール中毒

が多いのです。バーにいっても、日本のようにおつまみはありません。だまってひたすら飲んでいます。アメリカには、アルコール中毒は多く、酔っぱらいは少いのです。日本はその逆です。日本は慣れ合いすぎ、まあまあでごしてしまいます。そして議論したいのにだまっている、歌を歌いたいのに歌わない。だから発散は酔つてする。その場所も雰囲気にしても慣れ合い人間関係的なものがあります。

幼児の教育を考えるとき、小学校の場合にも同様ですが、日本とアメリカの子どもは、それぞれ違う環境で育つということです。自分の責任・能率などを教えるのに、どういう環境で子どもが育つているかを考えねばなりません。そして幼児教育は楽しいものを与えて、与える時、よそいきのものではなく家中では違うといつたものでないようにしなければなりません。しっかりした能率の上において、しかも与えるべきものは与えねばなりません。日本には日本の社会があります。アメリカのものをそのまま教えるわけにはいきません。日本とアメリカでは非常に違った生活をしているからです。学校でだけ、そういう教育をして、家庭では違っていて、まないような生活をするようにすすめたいものだと思います。

以上私がみてきた印象をまとめてみました。

(お茶の水女子大学助教授)

環境と保育

私たち、毎日の保育に園の環境をいかすために、どんな配慮をしているでしょうか。長所を長所としていかすだけでなく、短所をも短所にしていくことができると思います。もちろん、そこには、おのずから限界もありますが、今は、「環境と保育」ということで、三人の方にかいていただきました。

保育日誌から

川崎千束

子どもたちが出揃って活躍の盛んになる九時四十五分から十時までの十五分間、保育の場における彼を観察したものを保育日誌に書き留めておいた。今その数日を抜き出してみると、彼に孤立の日が続いている。日附が九月であればなおさら、この子の孤独は私の保育の怠慢と思われるであろうか。彼のIQは120である。

——
× × × ——
保育日誌の一部を抜き書きして、わが園のプロフィールを見ていただきたいだ
こうと思いました。

九月九日(木)晴

K君に妹ができたのは、入園の年の六月頃だったから、それまで彼は独りっ子でいたわけで、例外なく独りっ子の特質を多分に持っていた。母親がこの大学の卒業生で非常に教育熱心であり、他区からの遠路を、自ら自転車にのせて、ほとんど休まず通園された。しばしば觀察室にはいっては集団の中のわが子を觀察され、彼の融合性のないことを嘆かれたが、私はまず彼を正確にとらえようと考えた。

幼稚園の前庭で、数人の子が桐の実を拾っている。K君もその仲間にはいっているかに見えるけれど、桐の実を拾ってはいない。独りであっちへ行ったり、こっちへかけ出したりしている。——下園の時、迎えに来られたお母様が「K君が桐の実が欲しいといいますので」と申し出られたので、他の子の拾ったのをわけてもらつて袋に入れてあげる。——

九月十日（金）晴

やはり独りで上靴入れのところでぼんやり立っている。

「蜂がいるよ！」と四、五人の子が叫ぶと、そちらの方に走りよつて、無言で窓の上の蜂を見上げている。すぐそばで汽車ごっこをしている一群がいるけれど仲間にはいろいろとしない。

「先生輪ごむが落ちたよ。」と私のそばに来たのをとらえて、汽車ごつの切符と切符切りばさみを手渡して切らせてみせる。始め切れなかつたのが三度目にボツンと穴があいた。ニッコリ笑顔になつたので、その切符をもらって私が汽車ごつこのお客様になつてみせる。しかし、K君は汽車ごつことは無関連で切符を切つている。

M君が横合いから飛出して切符切りはさみを奪つてしまふ。それで一言も発しない。

九月十一日（土）晴

ひぐらし蟬の鳴声を上手にまねて私にきかせてくれる。昨日の切符切りに興味が持てたのか「切符切り貸して」と申出る。青組のはさみを借りて渡すと熱心に切つている。十分後にはそのはさみを持ったまま、水槽の亀の泳ぎを見ている。さらに三分後には、切符だけを持って近くの整地のブルトーザーの動きをじっとみている。「切符切りのはさみはどうしたの」「青組さんに貸しちゃった」との返事。

正午近くお月見のすすきを探りに愛世病院裏の小丘に行つた時には、皆よりずっとおくれて、赤くんばを追いまわしていた。

九月十三日（月）曇時々雨

台風、九州上陸の警報あり。

子どもたちが毎日呑む牛乳が、きょうは配たつがおそい。催促の電話をかけて帰つてみたら玄関で珍しく、K君がH君と話し合つている。

「先生、これ、水の中でとても泳ぐよ。」といふ。

「じゃ、水の中に入れてやりましょう」

「ただの水じゃ駄目。水溜りでなくちゃ。」

註——ぶらんこの下の水溜りで捕えて来たので。

「水盤も水溜りも同じよ。ためしに水盤の中に入れてみましよう。納得させて、水盤中に放たせたけれど、掌の中で固く握られていたので急には泳がない。

「やつぱり駄目。水溜りがいいんだ。」

「もう少し見てましょう」

暫く見ているうちに泳ぎ出した。

「なあに。なあに。」と近寄つてくる他の子どもたちを大声で、「見せてやらないぞ!!」とどなつてゐる。

この組の二年の保育が終りに近づいた一月上旬、「学芸大の付属小学校の考查に合格できました。」と来園された時の、この母親の緊張した面もちと、すこし、はにかんだK君の笑顔とのコントラストが忘れられない。

参觀に来られた保育の学生に、忌憚ない批判を求めたら、詩心

「案外、何にもないんですね。」と、まさにしかり。

型のごとく、ピアノ、オルガン、大型中型の積木、ままごと道具、お人形、縫いぐるみの動物数匹、画架、粘土入れ、それらが九十坪の建物の中に散在しているだけで、園内はひつそりとしている。

創立後歳浅く、備品の多くは望まれないし、伝統がかもし出す魅力あるふん圍気をつくるにも至っていない。その参観時が子どもたちの下園後であればなおさら、貧弱感を持たれるのは当然であろう。

しかし、園舎をめぐる数多い桜の立木に目をとめられたであろうか。一気に芽吹く頃の胸にせまるあの香を何と表現しよう。新葉の緑がしづくとなつてしたたり落ちるようで、葉の重なり合った梢を、ふつと仰ぐと深い緑に吸いこまれそうになる。桜の生命の強さが、私たちや子どもたちの胸をゆさぶり、生活への活素を与えてくれる。園庭で最高潮に遊ぶのもこの時である。遊び疲れて、樹かけで憩うている時M子が、

「先生、もう、夜よ。夜になつて羽が露にぬれてとべなくなつたの。」といい出す。子守唄のメロディを口ずさんでやると、桜の木にぴつたり頬をくつけて眠るポースを皆がとる。不思議なことに、自分までが遊び疲れた蝶のような幻想にとらわれて、いつしか子どもたちに身を寄せているのだった。芽吹きの桜は魔性である。付属高校から運動会の練習のマーチが流れてくる頃は、一陣の秋風にも、どんぐりが、ボタリ、ボタリ落ちる。子どもたちの心の中にも、ボタリ、ボタリどんぐりがおちていく。そして、いろいろなイメージが湧き出て詩が生れる。劇ができる。

あおい あおい そら

風が ふいてるよ。

ぼろり どんぐりがおちた。

こおろぎが ころころ にげてつた。

あおい あおい そら

風が ふいてるよ。

狭い園の保育

秋田好枝

(家政大学付属幼稚園)

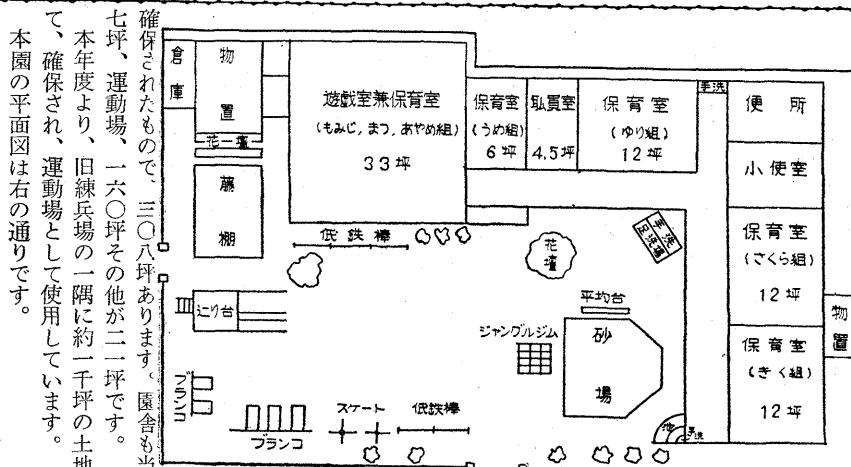
「環境をいかに生かして保育するか」という課題について、本園の環境と、保育の実際について、述べて見ましょう。

一、幼児の家庭の環境について

岡山市の北西部にあり、田、畑、山ありの静かな住宅地である。岡山大学、清心女子大学などの学校施設や、池田産業動物園、国立病院、旧練兵場などがあり、幼児の家庭環境としては、自然に恵まれ、理想的です。

近時、旧練兵場の一部が、公務員住宅になつたり、田畠が一般住宅にかわり、人口が増加してきています。

二、本園における幼児の環境について



本園の平面図は右の通りです。本年度より、旧練兵場の一隅に約一千坪の土地を建設用地として、確保され、運動場として使用しています。七坪、運動場、一六〇坪その他が二一坪です。七坪、運動場、一六〇坪その他の二坪です。確保されたもので、三〇八坪あります。園舎も当時の建設で、一二坪、運動場、一六〇坪その他の二坪です。

(1)障害を除去する配慮
(2)以上の欠陥は、幼児の身体にも、精神にも発達を阻害していくまです。ここに私ども教師の工夫がなされ、少しでも除去する配慮がなされなければならないと思います。

住宅の激増のため、幼児数は、本年度、全国的に減少を示しているにもかかわらず、本園には何ら影響もなく、現在二六四名(一年保育のみ)の多数で職員は、園長(専任)一名、教諭五名、助教諭二名、用務員一名です。組数は七組編成としており、敷地は、昭和二年住宅の少ない頃に本園の平面図は右の通りです。

運動遊具は園面以外に、シーソー二個、太鼓橋一基があり、保育室の遊具は大型箱積木一組、小型箱積木三組、床上積木五組、まとめて道具各々一組、人形三六個、絵本、ゲーム遊びなどで、教具としてピアノ一台、オルガン五台、電蓄四個、ラジオ二個、幻灯機一台、リズム楽器一揃、紙芝居六九組。飼育動物は、猿、狸、鶏、兔、小鳥、亀などあります。以上が幼児の環境であります。

三、狭い環境の保育について

(1)本園の環境の欠陥について

前述のような環境に多くの幼児を収容しているために、幼児全體に落着きがなく、常にいろいろしてたり、遊びが活動的でなく、静的になりやすく、また戸外生活において、園児が満足して楽しむことができないのです。思う存分飛びまわって遊ぶことができない。消極的な幼児は、運動具で遊べず、遊具の数をふやすことは、幼児の活動をますますばばむできません。

戸外遊びを奨励することは無理であります。多人数を収容している組の幼児は、注意力が散漫となり落着きがなくなり、狭い保育室の幼児は消極的になりやすいのです。

手洗などの設備が少ないため、時間がかかり、ブランクな時間がが多くなる。部屋の移動を絶えず行うために、継続した遊びができません。

まず、多くの児童が遊びに没頭できるような環境をつくるなければなりません。遊戯室に大型箱積木を設備したり、各保育室に小型箱積木を備え、多くのグーラブで遊べるようにしておき、またまことに道具を充実し、児童の遊べる場を、園内に多くつくります。また戸外生活を楽しむように、順番に遊具を代り合って使用するように指導し、一人でも多く欲求を満足させるように気を配つたり、広い場に連れ出して、思う存分走りまわって遊ばせています。

自由遊びにおける指導と保育計画に豊富な経験をさせるように考慮しています。

また保育室を使用する場合には、遊戯室の三組の児童を全員一緒に保育することは、教師の指導も困難であるから、他の部屋へ各々一組ずつ移動し、落着いた環境の中で保育しています。部屋にはいる時間はずらして、他は戸外遊びを充分させるとか、園外保育に新園地などへ出掛けたあとにあいだ部屋に入るとか、自由遊びの時にワークの時をもち、他の組のはいっている時に戸外遊びを経験させるとか、保育室の机を全部出して、リズム遊びをするとか、園庭にござを持ち出して、木陰でお話をきいたり、紙芝居を見たり、戸外で製作をしたりします。またお弁当日を設定し、半数を午前中、半数を午後までとし、午後の一時を施設を使用して充分遊ばせるようになっています。

遊戯室やら、狭い部屋の欠陥のあるのをそのまま一年間、同じ部屋にとどまらせることには、種々問題があるので、保護者に説明して、毎学期、全園児の部屋の交換を行っています。

保育の計画について

以上の環境に対する配慮をどのように、日々の保育の実際に行つ

ているかについて、のべてみましょう。まず毎日の保育がスムーズに行われるよう、職員相互が部屋の交換などについて話し合い、一週間の計画をたてておきます。当日の児童の遊びの状態を観察し、交換する部屋は適宜、教師の連絡により実施しています。

狭い施設をフルに使い、児童の経験が偏しないように、児童の欲求もある程度みたされるように教師が苦心して互に連絡しながら保育しているのです。

四、結び

以上まとまりのないことをのべましたが、狭い環境において、児童の経験を豊かにし、望ましい方向に、心身の発達を促進することは、困難であると思いますが、教師が眞に児童を愛し、教育目的をはつきり把握し、教育に対する熱と、教師相互の和と、創意工夫がなされれば、必ず克服していくのではないかと思っております。

環境が人格形成を左右すると思います時、私はいたたまれないような焦燥感に、たびたびおそれわれます。

本園の環境は、児童にとって、誠に氣の毒なことだと思いますが、前に述べましたように、家庭環境は実に広々として、児童にとっては、理想的でありますので、せめてもの仕合せと思っております。

また市当局の方々が、本園の現状に思いを至され、新園地を確保してくださいましたが、一日も早く新園舎が建設せられ、児童たちが幸福な生活をできることができるのも、余り遠くはないと思っております。

私自身も、大きな希望をもち、胸をふくらませておるのであります。

(岡山市立伊島幼稚園園長)

施設と保育

原田春子

幼稚園の施設、設備が保育の上に大きな役割りをもつてることは今更いまでもない。広い敷地、採光、風通はもとより幼児の動きまで研究して設計された園舎、教育的健康的に考慮されたかずかずの設備や遊具などは、私ども保育の仕事にたずさわる者の、常に望み、夢見ているものであるが、現実には必ずしもこのような理想的な施設にめぐまれた幼稚園ばかりとはいわれない状況のよう思われる。

私の勤務しているところも、こうした理想郷からは程遠いさやかな私立幼稚園である。園の位置は、新宿の繁華街から数丁距たつたところ、表通りから少しばかり引込んでいるが、街の騒音はどこにも絶えず流れ込んで、何んとはなしに人の心を落着かなくさせる。土一升、金なにがしかの土地ゆえ、園をめぐる家々が、境界線すれすれにまで建て込んで、二百坪ばかりの敷地はいよいよせせこましく感じられる。このような社会環境の中につて、「一応、幼稚園としての設備を整えて設置されている」というものの、文部省の示す設置基準には、はるかに及ばず、教育上ほしい設備のあれこれもなかなか思うにまかせぬ現状である。

幼児の教育は、かれらをつづむあらゆるもののが一体となつて働きかけ、望ましい人間像へと近づけさせるのであるから、現場にある者が、よりよい施設、設備を望むのは当然のことであろう。しか

し、そうした要求も園それぞれの事情によつて、そうたやすくいれられるものでもなく、また敷地拡張などのようになんでもほとんどの不可能な場合も多く、こうした面での不備不足は教師の責任のほかであるとはいえ、園児たちに対して、何かすまない思いで心が暗くなるのである。

けれども、園児たちにとって、ここは最良の生活の場でなければならぬ。ここで過す一年、あるいは二年の期間は、かれらの生涯の最も重要な時期である。また私どもを信頼し、すべてを任せて、大切な愛児を託しておられる両親方の期待は大きい。それらを思えば、その時々の実情はいかんともあれ、その中で最大の教育効果を上げることが、私ども教師の負うべき任務であり、またそこに仕事の張り合いを見出すことができるるのである。

当園の園児たちの半数以上は商店かアパートに住んでいる。一日中他人に接触することの多い生活であるから、人馴れして物怖じせず、勘?がするどくて、動作も機敏であるが、じっくりと落着いて、物事に集中することができにくい。社会から受けれる強い刺戟になれていて、生活力が旺盛であり、競争心がつよくて人を押のけて先を争う利己的なところも多く見られる。

入園当初はちょっと身体が触れ合つても「何を?」と言うように身構えたりけんかになつたりで、交友関係に何かとげとげしたもののが感じられるので、何よりも友だちと善意の交わりがもてるようになつて、ひとりひとりのもつ心の美くしさ、やさしさなどを強調して示し、親愛感を深めるように努力している。両親方にも、つまらぬ競争心を起したり、子どものけんかに本気になつて怒つたり、友だちの悪評を子どもの前で口にしたりせぬように、など、折ある毎に注

意をあたえている。

保育室の面積、園庭の広さ、遊具の数などは入園当初子どもたちの気持の不安定な時期にはことに大きく影響して、保育をやりやすくもやりにくくもするものであるが、何もかもが十分とは行かない環境で子どもたちが満足して遊び、思う存分活動することができるよう、園庭の使い方や遊具のあてがい方に教師はいろいろ工夫をする。当園は百名以内の小規模な園であるから、三つのクラスが、孤立したクラス意識をもたず、一家族のような親しみをもっているので、子どもたちも年少児年長児が入り交つて遊ぶことも多く、面積のせまい割には気分的に圧迫されることが少ない。それでもクラスなどがとくに古参者に占領され勝ちなので、各クラスの所属をきめておき、あいている時はどれに乗ってもよいということにしている。かけっこや野球のように場所を広くほしい時には、他のクラスが室内にいる時を見て庭を使うなど、カリキュラムにこだわらず、子どもたちの状態に応じて適当に誘導している。

このようにして、あり余るエネルギーを十分に発散させる一方、自制心を養い、少ないものでもゆずり合ったり分け合ったりして、集団の生活を快適にすることができるよう生活指導の面ではまた一層根気と努力を要する。

物の分け合いばかりでなく、小さい人を親切にいたわり、弱者優先にする心がけを、年長児にはとくによく教え、大きい者としての度量をもつてことに当らせる。年少児には、いつも大きい者にかばつて貰うことばかりを当然と思わぬように、一定のきまりを守つて行動し、けんかなどもできるだけ自分たちで批判し処理するように仕向けている。

子どもたちが非常に好んで、力いっぱい取り組む仕事に木工がある。鋸、金鎚、くぎ抜など一揃をクラス毎に備えており、教師の監督のもとに、いつでも出して使えるようにしてある。材料の木片は、建築の切りくずで、大小さまざまの形であるが、沢山集めて貯えておき、箱いっぱい手近なところに用意しておく。鋸ひきは人の邪魔にならぬ場所を選び、他の道具もけがの危険がないように注意して扱わせている。力の強い子どもはそうとう厚い木の板でも見る間に切りこなして好みの形を作り幾つかの木片を打ちつけて船や汽車や自動車などを作り上げる。船を作る時には中途で何回も水に浮かせて、重さを平均させるなど、それぞれの能力に応じて面白い作品ができ上がる。これにエナメルで着色したりして、子どもらにとっては、金銭で買うことのできない貴重な宝となるのである。平常落着きのない子どももこの仕事には相当長時間集中しており、仕上るまでは他のことを見向きもしないほど熱心である。また平素気持が荒々しく動作が粗野であった子どもが、好んで鋸ひきをよくし、製作に没頭してから、幾分気持が和らぎ落着きがでてきたとの報告もある。

粘土も一齊に製作させることはせず大きな魂のまま用意して、やりたい時に自由に使わせるので、かなり多くの量を使うことができるので、紙や絵具も費用の許す限り豊富にあたえるが、廃物の利用も心がけて、空瓶、空罐、新聞粘土、などは大切な材料にして用いる。不要になつた棒ぞうきの丸い柄を薄く輪切りにして、小さい自動車や汽車の車に使つたのは大変具合がよく、一本で沢山とれるので

大勢の子どもたちにあてがわれた。

都会の子どもたちは物質的価値判断や損得の常識は発達しているが、天の恵み、大自然のいとなみのすばらしさについては、無関心無神経である。しかし、周囲からの刺戟のあたえようで、大きな興味をもたせることも、鋭い観察の眼を開かせることもできるものである。私どもは心がけて、いろいろな生き物や植物などを子どもたちの身近において親しませるようにしている。お腹の大きいかまきりが、木の枝に卵を産みつけるところ。翌春待ちに待った卵から小虫が生れるところなど、子どもたちは真剣な顔付で虫めがねをのぞいていた。カラタチの臭い青虫がさなぎになり、十数日を経て美しいあげは蝶になった時のおどろき、十種もある無気味な姿の毛虫が黒い丸っこいさなぎになり、白色の蛾が飛び出すまでを見て、女の子まで毛虫を怖がらずに見られるようになった。保育室の隅の幾つかのガラス器が子どもたちの小博物館で、いつも数人の子どもたちが昆虫図鑑と実物を見比べたりしている。少し頭の進んだ子どもはもっとよい昆虫の参考がほしいと注文してくることもある。猫のひたい程の花壇にも四季折々何かしら花が咲いたり実ったりして、子どもたちを喜ばせている。

チューリップが一本だけ育つて真赤な花を咲かせた時のうれし

さ、思わず「咲いた咲いたチューリップ」のうたが子どもたちの口からうたい出された。日除柵に這い上らせたへちまとひょうたんのつるが、自分たちの脊丈をぐんぐん越えて伸びるうらやましさ。小さな変化の一つ一つが、大発見の報告となつて教師のもとへ飛び込んでくる。園に持ち込んだ小さな「自然」の姿を、もっと広く、

ありのまま見せたり、楽しめたりするため、春秋に、井の頭公園や新宿御苑に園外保育をすることもうれしい行事の一つである。

せまい場所、貧弱な施設の中であつても、子どもたちの身体をすこやかに伸し、その心を美しく豊かに育てるものは、教師の深い愛情であり、誠実さであり、研究欲であり、また子どもとともに驚き、よろこび、感激する心の若さであろうと思う。

他園に誇る立派な設備をもたずとも、送迎バスの豪勢さはなくとも、三々五々手をとり合って通つて来る園児たちを迎えて、ここがかれらのための本当の楽園である。との自信と誇りとをもつて、自分たちの使命を果したいと思う。

*

*

*

*

*

*

日本幼稚園創設功労者

清節に生きる 豊田美雄子先生

安省三

燃えあがる鋼の意志

豊田美雄子先生の風貌に接した人なら、先生はどのような人であるかをはつきりと理解するであろう。私は幸にも先生の住まれた近くに居住したため、若い頃遠くから先生の姿を見ていたので、今さらのようにその姿を思い出すのである。まことにそのつりあがった鋭い眼光は人を射るの感があり、きりりと結んだ口もとは意志の強さがしのばれ、容姿はまことに端正で、かつて弘道館で徳富蘇峯氏と面接された時の正しいずまいには、先生の尊容に接しただけで身のしまる思いがした。私は、先生が老境にあってよく人力車に身をまかせ、わき見もせず車を走らせる姿をながめたものであった。

水戸に残る豊田美雄子の一家はその頃悲惨な有為転変に見われ、つづきに起る一家の不幸はとどまるところを知らず、豊田家に生き残るもの美雄子ただ一人ということになってしまった。先生は明けくれに孤独の淋しさと、人生の苦痛とを味わいつくし、孤独の生活の中に思いしのばれるものは、夫小太郎が国事に奔走する際いい残した「強く生きよ」のことばであった。先生は夫小太郎の強い生き方を思い、いかなる人生の苦痛や困難にあっても、自己を生かす道は強く生きぬくことであると信じ、以来燃ゆる情熱をたぎらせ前途に光明をみつめながら、夫小太郎の形見の品にかしづきつつ、報國の念をうけて生涯を強く生きぬくのであった。その雄々し

月はあっても、その間夫が国事に奔走する激しさのために、同居の夫婦生活といふものはごく僅かで、夫は江戸に、水戸に、京都にそれこそ東西走席の温まる暇のない激しい活動の時であった。それ

い姿はけだかく、そして神々しささえ覚えるものであった。

そのために以来先生は和漢の書でひもとかざるはなく、ひたすらに土魂を磨き、人としての生きかたについて思索をねり、夫の遺志

をつぎ髪を切って学者になろうと思い、教育者になつて人材を育成し、日本文化の向上に力をつくそうかとも悩み、読書千遍、歌者万

嘗という祖父幽谷の暗誦を重んずる教育思想も受け、古今集などはそらんじていた。

冬子の母が藤田雪子で有名な藤田東湖の妹である。武田彦右衛門に嫁した幾子も、久木直次郎に嫁したおかのも叔母である。これらすぐれた人たちにとりまかれて生長した冬子は見識も人にすぐれ、波瀾多い世の空氣を吸い、生涯もまた波瀾多い生活を送り、その波瀾多い生活の中に毅然として清節をもつて強く生き抜いたのであつた。

妙齢にして孤独の生活を続ける時に、加藤木正之氏から再婚を懇望された。少し後にはなるが朝鮮全權公使大島圭介氏からも懇望された。仙石貢氏などもたびたび英雄子女史の所へ歌かるたをするために来ているのを見ると、その頃の英雄子女史の身辺にはいろいろな問題があつたよう見られもする。しかし、その間にあって、女の生き方はどうあるべきかをかたく心に秘めて世のきよほうへんには決して動かなかつた。この不退転の人生行路はいかなる威武をもつても、いかなる権威をもつてもこれを屈することはできなかつた。先生は俯仰して天地に愧じない境地に女の生き方を求めていた。その間ひたすらに読書研鑽をつみ、懷に剣をたばさんで夜道を学者の家に走り、勉学と自己の向上にひたすら意を用いた。この人格のすぐれた意志の強い、識見の豊かな人材を見出した人こそ時の

東京女子師範学校摂理中村敬宇氏で、女子教育の先覚者、日本屈指の教育家として先生を推薦したことによつて、東京女子師範学校の開校式に先だつて文部省から聘せられたのである。時に英雄子は、三十三歳であつた。

幼稚園保育手記

明治八年東京女子師範学校が設立される前に聘せられた先生は、最初読書教員という辞令を受けている。先生の履歴書を見ると教育の内容までがそれに裏書きされている。漢文と歴史と地理を受持つて教えた。教科書というものもないし、資料もないので、歴史は先哲叢談を用いたし、地理は輿地誌略によつたようで、教える自からが世界の広さに驚異の目を見張り知見をひろめるといつた工合であつたとのことである。

明治九年付属幼稚園が開設されることになつた。開園するに当つては相当の準備が必要である。そこで英雄子は開園一ヶ月半ばかり前に付属幼稚園保母兼務を申し付けられた。英雄子は幼稚園開設の準備と、保育計画の一切を日本で最初になした人で、彼女はフレーベル直伝の人といわれる松野クララ女史（独逸人）について、フレーベルの保育法の研究に日に夜をついで努力をおしまなかつたのである。

以来先生が明治二十年外遊されるまでの十二年間は、わが国に幼稚園教育の発展拡充をはかり、ことに園児保育ということのためには、恩物の研究からその用紙の製作、恩物の作りよう、音楽遊戯から楽譜の作曲に至るまですべては保母の手によつて作らねばならぬ

苦心があつた。加えて全国より集まる保母の養成ということや、幼稚園の拡充と強化のために関係各官庁への上書具申や、顕官高職との交際などに精力をそがれ、婦人の啓蒙などの仕事に日もまた足らぬ活躍を続けたのである。當時學院には下田歌子女史、竹橋女学校に鳩山寿子女史などがあり、それぞれの立場で活躍させていた。豊田英雄子女史は我が國幼稚園教育の創始者であるばかりではない。わが国女子教育の先覚者なのである。

また幼稚園保育についてフレーベルの保育法に専念研究されたが、後にはフレーベルが植物学者として植物の成長から幼児保育を研究したことには満足せず、自からの識見によつて思索や研究も行い、わが国民性にあつた保育をとり入れるに至つたものも数多くあるようで、これらは先生の保育手記や、婦人に対する講演草稿などに徹して明かである。

利に走らす

鹿児島で幼稚園を創設したい要望から、先生は懇請をうけて鹿児島に赴いた。當時交通が不便で、海路船で行くか、陸路は駕籠による外はなかつた。今ならアメリカへ行くより大騒ぎであつたろう。旅費として五〇円を受けた。當時としては大金である。先生は私べきでないとして養父天功の碑をこの金で建立した。鹿児島についてからは県令や有識者から厚遇を受けたが、先生の力とたのんでいた実兄力太郎は明治十年西南の役に戦死していたので、いとまあるたびに城山の墓に額ずいて淋しい心をなぐさめつつ日を送つた。幼稚園については先生の思うまことにできたので大胆にフレーベルの保

育法そのままを思いきつて行つたようである。ただ鹿児島の人とことばが通じないために苦勞が多かつたようである。

英雄子先生は経済に対して考え方方が徹底していた。現在豊田家に残る新彦氏は祖母英雄子について、私が、「大町桂月かの文に黄金にまよわす」という一節を読んだ時、「そこは大事だぞしかとおぼえよ」とほげまされたといつている。水戸の女学校に舎官長をしていた頃、商人からの贈りものは一切受けず、留守中に持参したものには家族の手で返却したこと、事は小なりといえども平常人のやれないことを引き抜きとやつてのける態度には、汚職や横領が新聞記事となる昨今の世相を思うごとに感概の新たなるをおぼえる。

第二次世界大戦の勃発した頃、先生は恩給のみによるささやかな生活を水戸市田見小路におくつていた。先生は家財道具を売払って金を正面して献金した。先生は正しいと思うことは必ずつらぬきとおすという性格である。夫小太郎の精神もまたこれであった。先生は亡夫小太郎を生涯のはんりょとして節をかえない意志の強さと、自己を持つことまことにきびしく、自からは豪傑としては豪胆さがないから清傑というべきかとユーモアまじりの述懐をのべてい

先生の生涯は苦闘の人生であつたが、苦闘の生活の中にユーモアを失わず、ゆとりのある生涯が見られる。母の雪子もそうであつたし、祖母の梅子はさらにユーモアの豊かな人であつた。八十八歳米寿祝の即興にも

日常生 活

めいどよりもしも使が来たならば

九十九までは留守とことわれ

留守といはばまた来るものと思ふべし

いつそ行かぬとことわってやれ

ともいい、いつまでも元気は衰えなかつた。このようであるから普通人よりは長命であつた。この長命についても、長命の支え方に卓越した識見をもつて自己を支配していた。先生は常に飲食のために腹をこわすというようなことは決してしなかつた。人間は健康を保ち、健康で豊かな経験を体得してはじめて人間の力となると解釈し、生命を長ずることは命が惜しいのではない。人と生れた生申斐は人間としてなすべきことがかぎりなくある。そのためには長命が必要であると信じたからであろう。

先生は活動的な人で一刻もあんかんとしない。根本正代議士（先生の夫小太郎に教えを受けた人）の兄が先生を訪うたことがあつた。この二人の関係は相当深い柄にあるはずであるが、面接数刻、話の最中に「わたしは今から講演会があるから君も行かないか」という時にはすでに靴をはいているという工合で、坐作進退はまことにきびきびしていた。座敷を歩く時肩で風を切るの風があつて、寸暇もじつとしていないという氣ぜはしいばあさんであったとは家族のもらす述懐である。

このようにきびきびしておりながらも半面はやさしい心の持主であつた。妻雄子が宇都宮女学校で校風刷新のことを成しとげた時、井上馨侯から山口県三田尻に女学校を創立するについて、彼女の腕を借りたいと懇望された時、先生は飛び立つ思いであつたが、しかし、一方水戸にある藤田の姉が困っているさまを見兼ね、姉一家の

みとりのために一身の栄誉をすべて姉一家のために水戸に帰つたのであつた。この美しい心情には頭のさがる思いがする。先生は常に猫を可愛がつた。可憐なやつだと猫を愛したのもこうしたやさしい心情に所以するのであるまいか。

水戸の田見小路に晩年を送つた美雄子の屋敷は彼女のものではなかつた。三百坪に余る堂々たる邸宅は、美雄子先生の生を終るまで無償で貸してくれた桑原家の温かい友愛であつた。水戸藩にあつた藤田、豊田、桑原家には友愛の涙ぐましい話題が数多くある。

美雄子は九十六歳で生を終る数年前まで、朝は家族の誰よりも早く起き、嚴冬にあつても桜の大樹のもとで、冷い井水に身を清め、田見小路に続く一望千里余にわたる関東の広野を眼下にながめ、浩然の氣を養いつゝ薙刀をもつて身を鍛錬し、北側の縁に日光下しの北風を受けて片腕ぬいて髪をくしけずり、身だしなみを整えて神棚や祖先の靈にぬかずき、夫小太郎の形見にかしづかぬうちは、いかなる人にも逢わず、何物も口にしなかつた生活は平常人のよくし得ることではなかつた。

（水戸市立緑か岡幼稚園長）

倉橋賞を受賞して

高 橋 恵 子

させていただきましたが立派な諸先生の御
発表を聞かせていただき自己の足りなさを
深く反省した次第でございます。

倉橋賞受賞に対しては全く予想もしてい
なかつたことであり、山下俊郎先生より賞
をいただきましたときは夢のような気持で
おりました。

倉橋賞を受賞して倉橋先生より直接励ま
しのことばをいただいたようで本当に感
謝から今まで、私の保育への志は
変わることなく細々ながらも歩いてきたつも
りです。しかし、道は前途けわしく永遠に
続いているように思ひます。

フレーベルの林縁の記念塔に刻まれてい
る Kommt, lasset uns unsern Kindern leben.
“来れ子等と共に生きん哉”の句を再び思
いおこし、いよいよこの道にいそしみたい
と思つてゐます。

そして幼児への研究は単に幼児の研究の
みに終るのではなく広く家庭、地域の社会
的環境とともに、つまるところ人間の生そ
のものの探究に他ならないことを最近しみ
じみ考えるようになつて参りました。

最後に御指導をいたしました諸先生に
心より感謝を表し筆をおきたいと思いま
す。

(大阪基督教短期大学)

幼い頃、幼稚園でキンダーブックをいた
だいたことがとてもたのしみで美しい絵と
詩のうなことばは幼い私に夢と希望を豊
かに育ててくれたように思います。キンダ
ーブックの裏表紙には、いつも倉橋先生の
おことばがしるされてあり幼い日の私には
先生というより“幼児の叔父さん”と云つ
た親しい感じをもつておりました。

後年、倉橋先生のキンダーブックとともに
に数々の著書を持見して幼児に対する先生
の育ての愛情と保育学に対するたゆまざる
情熱をひしひしと感じさせられました。

私が保育学に志した動機は終戦後の孤児
慰問のことでありましたが、幼児に対
する愛情は單なる感激的なものだけでは決

全国々公立幼稚園長会

水戸大会をおえて

戦後十年にしてようやく「幼稚園教育要領」「幼稚園設置基準」「幼稚園指導要録」の三つが指示されたが、これらはいずれも、現場で実践に移すのには、さらに具体的な研究を必要とする諸問題が残されており、われわれ直接経営を担当し、幼児教育の実際に当っているものによって解決を与えてなくてはならない事項が多い。この時機に際し全国々公立幼稚園長会は五月三十・三十一の両日、水戸市三の丸幼稚園に第八回の総会と研究協議会を開いて全国から参考し、問題解決の研究討議を行い、相携えてわが国幼稚園教育の振興発展に協力を誓った。その際ににおける協議題および研究発表について考えて見ると、現下における国公立幼稚園に関連する問題の方向を察知することができるかと思う。

協議題としては、

- 1 幼稚園設置基準の完全実施促進の具体策について
- 2 幼稚園教員待遇改善の方策について
- 3 幼稚園の行事はどのように考えたらよいか
- 4 政府より脱脂粉乳および小麦粉を幼稚園に配給せらるゝよう法的処置を講ぜられたきこと

一通り提案者の熱心な理由の説明を終り、会員からの質問、意見を述べて後、それぞれ委員付託とし、各処理委員の作製した原案を報告し、研究討議の未いずれも議決せられた。その後理事会で検討を重ね委員会を構成してその目的達成に努力しつゝある。

次に研究発表の題目を見ると、

- 1 保育室の工夫
名古屋市立第一幼稚園長 渡辺ナホ
- 2 健康保育を中心とした遊具の研究
堺市立第二幼稚園長 入間綾子
- 3 教育課程について
大分市立南大分幼稚園長 田所正義
- 4 園長は職員をいかに指導すべきか
岡山市立旭東幼稚園長 藤原夫佐
園長として日々経営の多忙な中に、現下における重要な問題について、長い日時を費やして、調査し、研究し、実践した結果を、こうした機会に広く発表して多数でもって研究討議することはまことに意義深いものがあると思う。園長は園の経営に忙殺させられているだけで、教育の実際面にまづに給食用の粉、小麦粉の配布を受けるようになる。

国立大学附属幼稚園整備促進専門委員会
附属幼稚園の増設、学級増、定員増、
幼児費などについて整備する。
これら委員会の活動によって幼稚園関係の諸問題を解決し、幼稚園教育の能率をあげ成果を一層大きくしようと、全会員で協力することを誓いあつた。(小林操記)

教論の方々の指導面からも望ましいことである。

園長会はここに協議題として取りあげられた諸問題の解決を推進するために次の委員会を設けて、本年はこれら各委員会の活動によって、解決への努力をすることにした。

調査研究委員会——各委員会の活動の基礎となる調査研究をする。
広報委員会——会の情況の連絡報告などを編集して毎月会報を発行する。
専門委員会——次の六つの専門委員会を設けてそれぞれの活動をする。
待遇改善専門委員会——幼稚園教諭の待遇改善のための法改正。
予算獲得専門委員会——施設、設備、その他幼稚園関係予算の獲得。
運賃割引専門委員会——鉄道旅券運賃の割引復活。
設置基準完全実施推進委員会——新しく公示された設置基準を完全に実施するため具体的措置。
給食実施促進専門委員会——小学校同様に給食用の粉、小麦粉の配布を受けるようになる。

ハワイの児童教育

堤 幸 堀 合 文 子

対談

ハワイの教育制度

です。

堀合 提さんは八月の半ばにハワイにお

いう目的で来られたのですか。

帰りになるそうですが、しばらくの間ご一緒に幼稚園の実際の方をしていらっしゃったのを今日は腹蔵のないところを話していただけませんか。

まずハワイの幼稚園の状態、幼稚園数、園児の総数、一クラス何人くらいの園児がいるかといったことについてお話をください。

堤 公立の小学校に併設されているのが

普通で、全島で一万人くらいの園児がいます。小学校の数は一〇五で、一人の先生に三十五人の子どもがいます。二、三年前までは二十五人ぐらいでしたが、だんだん三十人、三十五人とふえてきました。その他幼稚園だけ独立しているのもあります

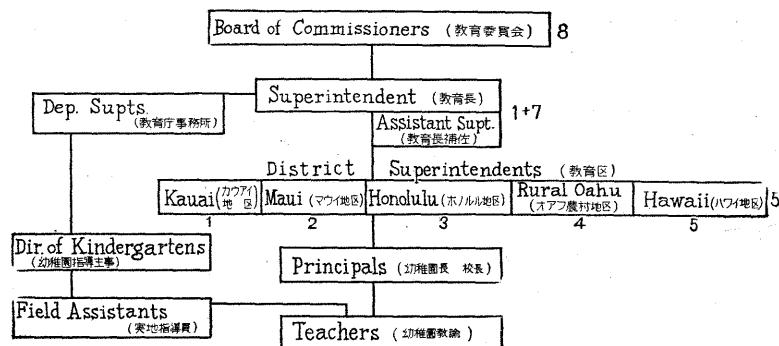
が、それは私立です。幼稚園は義務制ではありませんが、一年生にはいつてくる子どもの八〇～八五%が幼稚園からきた子ども

堤 私が日本へきたのは、日本のいろいろのところを見学して、とくに幼稚園を見学して、こっちの幼稚園教育のフィロソフィーや、紙ざいく、おゆうぎなど、いろいろ実際のことについて知りたいと思つたからです。

堀合 ハワイの教育庁の組織について少しほなしてくださいませんか。

堤 この表によつて説明しますと、公選されるのではないのですが、日本の教育委員会のようなものがあつて、それは各界の代表者八人によって構成されていて、そのうちの一人が教育に関係しています。それを教育長その下に教育長補佐がいて、各区の委員がいます。それに、校長、教諭とつづいています。教育長から出る傍系の役所として、教育長事務所、幼稚園指導主事、実地指導員などがあります。

DEPT. OF PUBLIC INSTRUCTION



教員養成の問題

堀合 ハワイの大学の実習はどのくらいの期間なさるのですか。

堤 ハワイ大学では、幼稚園の先生になるのに四年と五年の

コースがあります。はじめの一
年間は一般教養のようなもの

で、高校や中学、小学校の先生
になる人もだいたい同じことを

します。二年になって、幼稚園
の教師になりたい人はそのため
の勉強を始めます。一学期は大

学の研究で観察をしたり記録な
どをし、あとの一学期は、他の

公立学校の幼稚園にいて別の
やり方を見ます。四年になると
一学期は大学の研究室の付属幼

稚園にはいって堀合先生のよう
な先生について保育の実際をみ

ます。

堀合 それはだれとするのですか。

堤 ハワイ大学に一人ですか。

ならいます。一学期を朝からずっと子どもと一緒にすゞします。そして二学期は大学

に帰って、一学期に大学の研究室にいた人
と交代します。

堀合 実習の一学期は何週くらいです
か。

堤 十八週です。大学の研究室の付属幼
稚園の子どもを受けもつ時は、全責任を持
つんです。報告書を出したり、父兄会など
もいたします。五年になりますと、公立学
校にいて、一クラス全部を受け持ちま
す。一週に一回大学にかえっていろいろと、
その時実際に教育した事柄について討論を
します。その時は月給をいただくのです。
そして二学期は学校にかえって graduate
course をとるのです。

堀合 それはだれとするのですか。

堤 私たちの幼稚園のアドバイザーで

堀合 幼稚園を専攻する学生は何人ですか。

堤 三五人です。今はもつとふえていま

すし、公立学校もふえています。学生は公

立学校でいろいろの記録をとり、クラスの

先生は手伝ってくれた生徒のリポートを大
学へおくりかえします。だからその大学生
を公立学校で受け持つ先生も責任がありま
す。

堀合 そうすると、教員の養成機関と現
場とは密接に結びついているのですね。そ
れから五年目に普通の公立学校にいって教
えるわけですね。その時、クラスの担任の
先生はどうしているんですか。

堤 いないんです。そこはインターーン・
センターとしてもうけられているのです。

幼稚園に四つのクラスがあれば、一クラス
はいつもそこにいる先生で、後の三クラス
がインターチーンです。

堀合 そういう幼稚園はいくつぐらいあ
るのですか。きまつてあるんでしょう。

堤 ええ、きまつてあるんです。私がい

た時は二つでしたが、私が卒業して二年後
には二倍になっています。

堀合 就職の状態はどうですか。

堤 自分の就職したい幼稚園を第一希望
はどこ、第二希望はどこといったように、
三つまで希望を出しますと、誰でも第三希
望までのどこかにはいくことができます。
就職がないということはありません。

堀合 私立の養成機関はないのですか。

堤 大学以外には……

堀合 ありません。

堀合 インターーン専門の幼稚園は三つか
四つあるわけですね。

堤 それは大学の方から指定するわけ
で、そこへは二人の特別のスーパーバイザ
ーがいるんです。教員養成大学と文部省が
一しょになつてやっています。

堀合 インターーンのところの子どもはち

ょつと氣の毒なことはありませんか。

堤 ええ少し。でも大学の付属幼稚園よ

りは良いと思います。六週間は五歳児のと
ころ、次の六週間は四歳児のところとい
うように次々と交代します。それにいろいろ
と記録をとる学生などもはいつてきます。
インターチーンは二学期にいく先生が大へんで
す。子どもたちが一学期の先生になれてい
て、最初の三週間はとてもやりにくいので
す。

堀合 四年制の人と五年制の人とどちら
が学生が多いですか。

堤 五年の方が多いです。四年の人は、
いずれは、五年制の免許状をとらなければ
ならないんです。午前中教えて、午後から
大学へ行ってコースをとったり、休み中に
学校へ帰つてコースをとります。給料は、
四年制を出て教えている人と、インターーン
の人と同じです。以前は四年でた人が高か
ったのですが、そうすると四年で出る人が
多くなるので。ですから、今ではたいてい
の人が五年までいきます。五年で出ても午

後から、学校の先生だけが一緒になつて、

文部省などから先生が来て一つのコースをとることはあります。しかしそれはどちらに便ならぬということはありません。

堀合 小学校の教師も同じような養成の仕方ですか。

堤 同じです。そして幼稚園・小学校から高等学校まで給料も同じです。だいたい一般教養は幼稚園から高校まで同じです。

堀合 幼稚園の教師の免許状と小学校の免許状とは同じですか。

堤 幼稚園と一年生とが一緒に、時々二年生も教えることがあります。そして、教えている間に自分が小学校の先生にかえりと思つたら、申し込んで別に小学校のコースをとります。そうすれば、両方教えられるわけです。

堀合 ふえる時はいいですが、へる時はどうするんですか。

堤 そういう時は、その学校で長く教職についている人が残り、また新しい人の場合は、五年の教育を受けた人が残ります。そして、他の幼稚園にいく人は、やはり希望を出します。

堀合 幼稚園の先生で幼稚園より小学校を教えたいたいというような希望がありますか。

堤 ええ、ありますね。また高等学校を教えている先生が幼稚園をやってみたいとか。

いう人もいます。その場合は先生をしながら大学へ帰つて幼稚園に必要なコースをとることです。

堀合 幼稚園にはいりたいと思う人はだれでもいれるんですね。

堤 ええ、そうです。以前は、一クラス二十五人で、それ以上はいれなかつたんですが、今日では、申込者数によって幼稚園の先生やクラスの数、人数がきまるわけです。ときどき年によって級数に変動があります。

堤 幼稚園と一年生とが一緒に、時々二年生も教えることがあります。そして、教えている間に自分が小学校の先生にかえりと思つたら、申し込んで別に小学校のコースをとります。そうすれば、両方教えられるわけです。

[第二表] A Daily Schedule

*Example(ある日のスケジュール)

8 : 00— 8 : 30	Greet children ; Preparation	準備
8 : 30— 9 : 00	Collect Lunch Money	あいさつ 費徴集
9 : 00— 9 : 15	Sharing and Discussion	話し合い
9 : 15—10 : 20	Toileting and Juice	討論
10 : 20—10 : 30	Plan work Period	おやつの計画
10 : 30—10 : 50	work Period	つけづけ
10 : 50—11 : 00	Clean-up; check corners	自然観察
11 : 00—12 : 00	Outdoors, or Science.	食事の用意
12 : 00—12 : 15	Story, or Dramatic Play, etc.	その他
12 : 15—13 : 15	Toileting; Prepare room for lunch.	パズル
13 : 15—14 : 00	Lunch; Clean up	絵本
14 : 00—14 : 25	Toileting, books, puzzles,	静かな音楽
14 : 25—14 : 30	Story or Quiet Classical Music	そび
	Nap	排泄
	Out Door Play Toileting	戸外あそび
	Music; Rhythms Songs.	おゆうの仕事
	Prepare for dismissal	帰宅
	Dismissal	

幼稚園の一 日

堀合 一日のプログラムについておはな
しいいただきたいと思います。

堤 朝八時半からはじまります。小学校
と同じです。まずおべんとうのお金を集め、
それからお話し合いをグループでしま
す。そのあとで、一しょにお手洗にいきま
す。それから手を洗って朝のジースをの
みます。そして仕事の時間の計画をたてま
す。仕事の時間が終わるとお片付けをし
て、外あそびか、音楽か、おはなしの時間
をして、また手を洗って昼食の仕度にかか
ります。そして昼食がすむとお昼ねで、お
昼ねの前にお話か音楽をかけます。お昼ね
の時間は、一時間ないし一時間半。その後
外あそび、おゆうぎをしたり、先生によっ
て違いますが、科学、かぞえ方、ラングエツ
ジアワーにして、お子さんが自分でつくっ
たおはなしなどをします。だいたいこの位
です。

堀合 朝学校へくるときはひとりでくる
のですか。

堤 ひとりで来る人もいますが、お兄さ
んお姉さん、おかあさんなどとくる人もい
ます。ひとりで来ても学校のまわりの道
に、小学校の四年五年の子どもが、交通整
理をしていて、車など止めてくれます。

堀合 年令は三歳からですか。

堤 五歳からです。九月に入学するので
すが、その年の一月から十二月までに五歳
になればよいのです。ですから九月に入学
する時は四歳八ヶ月の子どももいます。

堀合 朝のデスクカッショーンは、先生とお
子さんとがあるわけですか。

堤 はい、そうです。自分の家であったた
こととか、人形とかボートなどをみんなに
みせながら、人形やボートのおはなしをい
たします。

堀合 こここの幼稚園は、朝くるとお話合
いをしないですぐやりたいことをして遊び
出し、そのうちに先生が何かはじめるよう
です。

を持っていきますね。そちらでは、まず「お
はようございます」をしたら、あそばない
でぐいろいろのことを始めるのですか。

堤 八時半までは、いろいろのことをし
て遊びます。積木などは出しませんけれど。
よみます。パズル、お絵かき、本などを

堀合 そしてみんながあつまつた頃に話
し合いをするのですか。毎日そうなさるの
ですか。

堤 ええ、最初学校にあがりたての時
は、二つ三つすることを出して、そのうち
から一つを選んでしますが、はじめは、長
く一つのことをやっていられないで、次
次にまわってあるきますが、だんだん一つ
のことにかける時間が長くなります。積木
で遊んだ人は積木、絵の具を使つた人は絵
の具を、というように責任をもつて片づけ
させます。

また、時々一日のスケジュールを変更し
ます。今日は仕事の時間が良くいっている
と思ったら、仕事の時間を少し長くします

し、暑い日など室内にいるのがかわいそう
な時は、仕事の時間をみじかくして外であ
そびます。

堀合 一応、水族館をしようと先生が計画すれば、みんながしたくなくてもその日は経験をするわけですか。

生は自分の教養を積んだり、人間としての自分を養なうことが大切なことを知っています。そして、先生たちが自分の趣味や教

堀合 興味の持続時間がお子さんによつて違いますね。そういう時はどうするので
すか。

堤 他のものをします。もし絵をかきた
い人が六人いて、四人の場所しか用意して
いないときは、他の二人は本を読んだり、

堤 いいえ、したくない人は別に自分でやりたいことをします。でも少しだけです。家に持つて帰るもののがなくなるから。最初は二、三人いますね。けれども帰るとき自分がだけないときよりも悪いのでだんだんいなくなります。

教師の生活

期がくると子どもの興味は相当広範囲にわたりますので、時には、積木、絵本などを

堀合 幼稚園の先生の生活について少し
おはなしくださいませんか。

ひとつめることもあります。また、クリス

堤 幼稚園は朝八時に始まりますから、

マスとか遠足にいった次の日などは、他の仕事を全部やめて、それにかかりきりになります。例えば、水族館に遠足にいってきた

先生は七時半には幼稚園に来て います。そ
して、午後二時半に子どもが帰ると、十五
分後には先生も幼稚園の門を出ます。

ら、朝、水族館のお話をしますね。そのと

堀合 家に帰るのですか。

き自分はこんなお魚を見てすきだとか。それをどんなにしてあそぶか。などを話し合

堤 家に帰ることもあるし、踊りを習いにいったり、いろいろです。

い
ま
す。

私たちの学校の校長先生は、幼稚園の先

幼児教育実際指導研究会

分科協議会より

絵画製作

指導 林 健 造

絵画製作

問 自動車や花というように、同じものばかりかいている人はどうしたらよいでしょうか。

問 絵の導入方法についてお話ししてください。

林 導入であるからこれにあてはめなさい、ということはありません。子どもの造形活動のもとになる心づくりとか、教室づくりが重要です。したがって、臨機応変のものだと思います。地域や環境の問題もあるし、子どもと先生の自然の雰囲気の状態からくる場合があり、お話を聞く場合と視聴覚、ラジオやテレビを利用することもあります。

問 二年保育児の中に絵を描きたがらない子どもが大せいいますが、どうしたらよいでしょうか。

たるもので遊ばせることだと思います。たとえば、雑草をつませ、汁を出させて、画用紙の上にこすりつけたり、やわらかい石の粉をけずったり、さわったり、ならべたり、自然物を利用するのも良いと思います。絵の具でスタンプ遊びをしたりして絵を描く前の段階で、うんとあそばせるようにしたらよいのではないかでしょう。

A 私は年少児の経験はありませんが、最初に絵を描かせるのではなく、絵に関連し

林 ええ、そうですね、今は良い御意見でした。このこといろいろ苦労している方もいるでしょう。

B 私は筆の先に自動車の小さい絵をつけてしまふ」という遊びをしましたら、描かない子が描くようにならなかったのです。

林 絵を描かない子どもの他に、いつも同じところに停っているという二つの問題があります。それについては、絵を描く前の段階に導入の価値を認めている方もあります。またお絵描きというのはクレヨンと白い紙だと考える方もあり、絵というものは物を描かなければいけない、チューリップとか自動車、も

う少し進むと印象画など、遠近法ができなくてはいけない、という人もいます。自分はどこにあたっているか考えてみてください。絵を描かない子どもには幾つかの原因があります。空白の恐怖ということがいわれます。それは空白に対する恐怖を解除してやれば恐怖ではなくなりますし、白い代りに色紙を使つたり、新聞紙を使つたり、包み紙でも良いのです。また、庭で棒切れで描くこと程良いことはないです。

物を描くように強要している母親は、物をかくようにならかくようにとしつけていると、子どもはかえつてかきながらいません。また子ども自身の経験の乏しい場合にも描きません。それを解決するには、恐怖をとりのぞくこととか、紙のおおきさ、形、色の問題、教師、園などについても考える必要があります。ここに一つの例をあげてみますと、ショウウ女史の書いた本の中にフィンガーベインティングを使つて清潔好きな子どもを扱つたものがあります。フィンガーベインティングをすると、清潔好きの子どもは、いやな顔をしてやらないので、ショウウ女史が「私の手の上に乗りなさい」といって、手の上に子どもの手をのせて描いていたが、突然ショウウ女史が手をはなし

たので子どもの手には絵の具がべったりついてしまったのです。そこでその子は描くようになつたそうです。

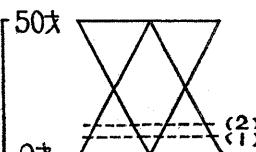
同じものばかりを描いているという問題ですが、これは、自分の最も得意な世界に同じこもろうとしているのです。自信がなくて新しい世界を開拓していく勇気がないのです。そこで少しでも絵が変ってきた時に賞めてやります。また、間にことばをさしはさんで絵を進めます。これを追い込みの方法といっています。

問 自然発生的グループの指導について教えてください。

林 とともに考えますと、複雑な問題です。自然発生的グループの指導はどうしたら良いかということですが、絵画製作というの、ひとりひとりの子どもを重んずる活動です。

特に山の大将であり幼稚園では主觀の世界であるから、グループとか、共通指導はしにくく、子どもは誰でも自分が中心になって活動をしたがるのでむずかしくのです。しかし、仲の良い子どもたちはグループになって活動します。

林 それは簡単に説明できます。この絵は、等辺三角形を二つ合わせたものです。これ等辺三角形を二つ合わせたのですが、これを〇歳から五十歳とします。下の三角形は自己表現の世界で逆の三角形は社会性、全体性という世界です。このように考えると、幼稚園の子どもはどこにあたるでしょうか。



ここで第一に問題になることは、子どもが萎縮しないことがあります。その他一諸にすることのほかにプラスアルファがあれば良いのです。そのプラスアルファが何であるかと云ふと、これは、自分の最も得意な世界に同じこもろうとしているのです。それは、五、六人でしたことによって非常におもしろいものになつたというのもプラスアルファです。誰かの考えが自分の考えにプラスアルファされた。また、先生が「すばらしいわね」ということをもプラスアルファです。そしてこのプラスアルファをどのようにばしていくかといふことが大切なのです。

問 個人指導が一番大切ですが、グループ指導も大切です。まんべんなく公平に指導することが必要なのです。が、どうしたらよいでしょうか。

だいたい(1)にあたるでしょう。また中学生は(2)にあたるかもしれません。人間は「おぎやあ」と生れた時から社会的人間ですが、その占める位置は小さいのです。ですからこそでは社会的なことができなくとも誰も笑いません。幼稚園の場合は、個人的なことが多く

音 楽 リ ズ ム

指導 戸 倉 ハ ル

問 リズム音痴の矯正法についてですが、リズム音痴は幼児期になおさねばならないのでしょうか。それとも小学校まで放つておいてもいいのでしょうか。

戸倉 幼稚園・小学校にはいってきた子どもにスキップをさせると、四十人の子どもが四十人も全部できるということはない。一人、二人は必ずできない。

は、無理に直そうという努力はしない。一例をあげると、幼稚園にはいってきた「花子」

は、スキップができるないで黙つてみているだけである。そのうちに、よくできる「千代子」と一緒に手をつながせると、始めはできなくて一緒にかけているだけであったが、六ヶ月頃になるとだんだんスキップができるよ

て好きなことをどんどんすることがあつていのです。しかし幼稚園になると、社会性が幾分含まれてきますから社会性を全く無視することはできません。成人すれば知的なりアリズムを描くのですが、幼稚園では知っていることを描くのです。

うになった。このようにできない子にも母親に連絡をとつて「そのうちにできるようになる」と伝えて心配させないようにしてくださる。こういうやり方はけつして不親切ではない。やつてやつてのうちに自然に感覚の中にはいくつてきてできるようになります。

問 いつも疑問に思つてゐるのですが、スキップやギャロップまたはアクセントをつける

動作など基本的なものと創作表現とをどのように取りまぜたらよいでしょうか。私たちも喜ぶのですが、それを創作表現にどのよ

うにもつていつたらよいでしょうか。

戸倉 創作については、どなたもつきあつていいらっしゃる問題だと思います。遊戯とは、いわゆるダンスと呼ばれているもので、小学校ではリズム運動、中学校ではダンスと名称が違います。それは、身体の発達程度に合わせて遊戯がつくられるからです。私たち幼稚園でやる遊戯は、ダンスの未分化のものだと考へていただきたいのです。

私たちの思うことを音に表わしたら一連の曲ができます。私たちの思うことを色で表わすなら絵になり、それをことばであらわしたら作文や詩になります。そして、私たちの思ひの身体の作文がダンスです。このダンスは年とともに変化してきました。時代によつて、地方によつて、またはその形式によつて、種類が分けられていますが、私は、生活中で遊戯やダンスをながめるのが一番良いと思います。

私は身体の作文であるダンスを三つにわけたいと思います。

皆さんがバレーを見にいく。これは、芸術の鑑賞です。パーティなどで社交ダンスをする時、フォークダンス・スクエアダンスをやりになると、それは民謡を踊ったことになります。学園であるダンスは、舞台のものではあ

由にさせ、それを曲の方へもっていきました

た。これを自分としては、自然に観察からりズム遊びへと導入できたと思つてゐるのですが、この他に強制的ではなく自然にするよい方法はありませんか。

戸倉 こういうのも一つの方法だと思います。すなわち、表現導入の方法として、私どもの生活、主に歩く、走る、とぶという三つ

のことをとりあげます。この三つを音楽的にし、何の表現でもこれを使えばやさしいのであります。表現というのは、自然環境から自然に得たものをリズムに再現したものです。私がチヨウチヨウをみると、あの既成の曲では感じ

を表わせないと、あの曲に合わせると、シオシオとした元気のないチヨウチヨウになる。既成の曲では間に合わないので。そこで子どもが汽車をした時は、子どもの動作、リズムを見て、先生が子どもの動作に合せていくようになる。このことは子どもの表現を助けることにもなるし、またそうすることで幼児の表現の意欲を満足させることになるのです。

「ムスンデ、ヒライチ」という歌の曲は、明治時代にスイスの人が作ったのですが、とてもいい曲です。この曲の終りに「カニさん」というと、カニになり、カニの動作に先生の

リズムをあわせると子どもも満足するので

す。五十人の子どもがいる時には、一人ずつやらせ、一人ずつのリズムを作つてやるのであります。カニの時でも一人ずつやらせると注意深く慎重になります。そういう導入の時間もあるとよいと思います。

問 楽器を使う時、間が大切ですが、休みを待つてるのは子どもには難しいのですが、カスタネットを使う時待てない場合が多いのです。その休みの間の持ち方をどういうふうにすればよいのでしょうか。

A 楽器をもたせる前に全身でリズムをとらせます。私のところは、関西ですので「せつせつせ」という曲でお友だちと手を打つたり、また自分の手とひざを使ってリズムをからだで感じさせることになり、役立っています。

B 私は、昨年と今年と一年保育を持ちましたが最初は歌いながら打つことが精一杯でした。

最初では歌にのつてリズムを打つことは、無理ではないでしょうか。いくら理屈で休み、いくつ打つといつても駄目で、やはり自然に

の後でリズムに合せるようにしました。

戸倉 私は何となくリズムを知らせるというのが大好きです。これが幼稚園教育では大切です。休止符ということ、また間を置くことがあります。休止符は大切なことです。ダンスには大切です。ことばにも大切です。ダンスにも大切ですし、子どもにとっても、大切なことです。しかし、それは難しいことです。私は二拍子を打ち休みのあるのを知らせます

「お花をかざる」の曲で「おはなをかざる、トン、みんない子、トン」という二つの休みを一年の間にできるようになればよいのですが、強制的ではなく、自然に体得させます。幼稚園では、音楽や遊戯は強制的にやらないことが大切です。

(お茶の水女子大学付属幼稚園にて)

*

*

*

*

幼稚園教育の効果をたかめるために

体育をどのように扱つたらよいか



桜井たか子

はしがき

今年の夏もはじまりうとする頃、御承知の流感が猛威をふるつて私どもの幼稚園も、千代田区一斉休校の仲間入りをいたしました。

研究会の予定の六月十四日を二日後にひかえて思いがけないこの

世のなりゆきに、一時中止を決定しましたものの「せっかく準備をしたことであらうから」とのおすすめもしきりでしたから、休校解除のあとしばらく幼児の状態をみた上で、思いきって七月四日にごらん頂くことにいたしました。

ことのおり

研究発表会とは申しますものの、きわめて未熟な内容で、なおまたこのことについてお話し申し上げるのもはずかしいほどでござります。さかのぼって半年前に東京都公立幼稚園教育会の年中行事、

つまり研究事業の一つとして公開保育が千代田区の番ときまりましたから、それではということで区内の共同の研究にもとづいて、大研究会ならぬ小研究会を私どもですることになった次第でした。

千代田区のこと

千代田区では昨年から区内十五の幼稚園で協力して、幼児の運動能力測定、ならびに体育的なあそびについて研究をしたわけで、それ以前には「運動能力測定としてどのようなことがらが適当であるか」について検討されたのですが、本年もさらに幼児の体育について研究がつづけられることになっています。この面倒な、しかし、着実な研究のうちに、私どもの考え方もきまり、もう一つには幼稚園のおいたちからくるものが底を流れているといえましょう。

園のおいたち

千桜幼稚園は、東京都千代田区神田にあって、千桜小学校の併設で、しばらく前に本誌に「時差通園について」と題して、安藤哲次郎氏が経営の一端を発表された記事を『ごらん頂いた方も多いと存じますが、安藤氏が昭和二十二年再開後の園長として、のちに中央区常盤幼稚園長に転任されるまでの十年間、卓抜した人格、識見をもつて、時にのぞみ、機に応じて發揮された成果がつもうつもって私どもの園を今日あらしめたことを思いますと、職にあるものも、こどもたちもまことに幸せであったと申したいのでござります。

現園長、森宗男氏は教育界に独特の才能をみがかれ、豊富な体験を生かされて、渋谷区大向小学校から転任なさり、かねての抱負を実現すべく、指導されつゝあり、二十二歳の新進から三十何歳かの今まで実に適当な年令差をもちながら、健康で、熱心な先生方揃いという好条件に恵まれた環境で、加えて小学校の先生方のうちとけた好意も大そう励ましになっています。

註　本年から幼児数の減少と保育室増加のため平時通園になりました

園のまわり

次に幼稚園の地域はというと、伝統ある神田つ子の土地であって、震災、戦災などの被害が相当大きかつたにもかかわらず、めざましい復興をみせ経済界に重要な位置を占めています。

両親とも家業に力をそそぐむきが多く、忙がしく生活しています

が、経済的、文化的に程度の高い面がみられます。

映画館、劇場、デパートなどは歩いて行かれる距離にあり、相当に利用しています。昭和通り岩本町交叉点は東京で二番目といふ交通量の多いところです。

あそび場も非常に少ないので校庭の開放は、放課後、日曜日、夏休みその他特別の事情のない限りこれを行っております。

ねらい

さてそれでは研究をどういうテーマですすめていく、どういうかたちで発表するかと考えました。

テーマは「幼稚園教育の効果をあげるために体育をどのように扱つたらよいか」ということになりましたが、ここで体育の名を出すことも随分考えたので、幼稚園で体育？ ゆきすぎでは？ と心配を頂いたこともあります。

なくならました倉橋惣三氏のおことばを借りますなら、幼稚園の教育——生活を、五目ずしに例えて（又それは『コア』とよばれる形でしきうが）いろいろな具が適当にまぜあわされておいしくできることから、もちろんおもしの材料を吟味しながら、かんぴょうがかんぴょうとしておいしいのでなく、椎だけが浮かびあがるのもなく、五目ずしとして何ともいえない味を出す、その通りできたらと思ったのでござります。

準備したこと

(一) 体育的なあそびのそれぞれの意味を知りながら、とり扱い方としては自発的な興味をひきおこさせるように留意する。

(二) 環境をととのえる工夫として、適当な用具をえらんで、とり出しだりまた片づけたりすることが幼児の手ができるように置く。

(三) 時折小学校の先生方に参観を願つて話合いをして批評を頂き部内こそ違え、この地域の学校として適切であるか、一緒に考える。

(四) 園外保育の映画を撮って父兄に見せ、つきそいがなくとも安心して送り出してくださるよう理解を得る。(この映画はのちに港区白金自然教育園に園外教育を申込んで、付添のない幼児は管理の点で問題があるからおことわりしますとのことであった時、フィルムを持参して、これをみて頂きたい、とお願ひしたところおゆるしが出て、うつそうとした自然林を見ることができたので思わずそこでの役に立つたと思いました。

お礼のカード

忙がしいなかをきていただく方々に心からお礼のいみで、四つ葉のクロバーのカードをつくりおもち頂きました。ことばはひとともかかれてなかつたのですが胸がいっぱいで何もいえなかつたからでしょう。

当日のこと

当日のプログラムは次の通り進められました。

(a) 9:00 ~ 11:00 公開保育

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	昼食休憩
講演「体育の本質からみた幼児保育のあり方」						研究協議会
東京教育大体育学部長 本間茂雄氏	2,00 3:00 (4:00)	12:30 2:00 12:30	12:00 12:30 12:00	11:00 12:00		

本間氏のおはなしは、さすがに体育を通じて人間形成を全くされた方としての、一流の香り高いもので、参加した方々に喜んで頂くことができました。一時間の予定が二時間あまりにもなりましたが興味のつくるところを知りませんでした。まことに有意義でありがたかったと思いました。

あとがき

研究会は東京公立幼稚園教育会の研究事業であるとまえにかきましたが、千代田区教育委員会ならびに千代田区教育研究会保育部も趣旨を理解してくださり、共催のかたちで、御援助を頂きました。なお教育庁指導部の安藤寿美江氏はじめ、多くの方々が忙がしい中を練り合せ、七月四日は出張するからと前もって御来園の上よい助言を与えられました。最後に、教育大、体育学部太田哲男氏からは専門的な立場から、千代田区で研究をはじめて以来、ひきつづき惜しみない懇切な御指導を頂き身にしみて御恩を感じております。

(千代田区立千桜幼稚園教諭)



童話を書く子どもたち

室 谷 幸 吉

子どもにユメをもたせることに不賛成な人はおそらくありますま
い。しかし、どんなユメをもたせるかとなると、考えがマチマチ
で、ちがってきます。

王様やおヒメサマがでてくる、花がダンスをしたり、金魚やスズ
メが、うたつたりしゃべったりというロマンチックなユメを支持す
る人があります。

かと思うと、「いや、そんなロマンチックなユメは、一步一步より
よい生活を積みあげていこうという積極的な気迫をぶらせ、失わ
せもする。現実を見ぬくきびしい目にオオいをかけたり、くもらせ
たりしてはならない。」と強調してゆづらない「生の現実派」もいま
す。

子どもたちは、実際に話をきくことを喜びます。いわゆる「物語・
おとぎ話・童話」といった類のものを……。「生の現実派」が、「逃避

的だ。遊戯的だ。」とののしる三つの種類のものを、です。しか
も、ただ聞いているだけに終始せず、ある傾向の子どもらは、実際に
熱心に、そうした種類の話を書きはじめます。もっと私は、子ど
もらが入学して来てまもない四月の中旬から『星のこども』という
手製の読みものを、一枚文集の形にして子どもらに手渡し、毎日の
ように家庭に持ち帰らせ、回覧させました。

その中に「おべんとうとねずみたち」とか「かたつむりの見たゆ
め」といった先生の手になる童話風の作品も、読みものとしてしば
しば載せました。こういうことが、子どもらの創作への目と意欲を
ひきたてたのだろうとは、十分想像されるわけです。

うまの子とたろうちゃん

あるあつい日のこと、うまの子が、たろうちゃんにつれられて、

もりのなかをあるいていきました。すると、とつぜん「うおー」という声がしたので、いそいでござっていきました。うまの子のうきいことついでいったらありません。とらがきたら、じょうずに上げる。とらがこちらにくると、むこうにげます。それを見たたろう

どんどんおかねはたまりました。おかねもちになりました。千円
まん円ぐらいたまりました。こんどかたかるたは、たりなくない
です。それはおおよろこびをしました。

ちゃんは、びっくりしました（一年生・五月もの）

といったものです。まもなく“つき話”といつた形で、ワラ半

紙を二つに折り、まん中を糸とじにした雑誌風の自製本なども作りだしました。

たりないかるた

あれました。そのしは「と」というしと「」といふしと「」といふじと、「し」というじと、「の」というじと、「も」というじです。

ん。それでかるたをかうのは、あきらめました。かるたはもう十五
かいぐらいかったので、おかねは百円ぱっちになりました。それ
で、あめを二十ぽんしか、かえなくなりました。

「おが、おかねはいつべんにふえて、千まん円、おくまん円とあめ二十ほんど二ろか、いろんなものがかかるようになりま

した。かるたをかいたくなつたので、かつたら、たりないじはやつ

ぱりありました。そのじは「の」と「ぬ」と「は」と「む」で

す。どうしてかな、どうしてかな、ハリハリの中でいつでもおもし

ほうやといぬ

ある日、ぼうやは、おかあさまにつれられて町へいきました。そうするといぬをうつっていました。ぼうやは、それに目をとめて、「いぬかつて、かつてよー よー。」といいました。おかあさんはしきごころつぶやき

「あとでね。かえるときよ。」

ぼうやは、ききません。

「かってよ！ よー かって。」といって、きかないのと、しようがないので、いぬをつれてうちへかえりました。うちで、いぬといっしょに、よくあそびました。おかげさまで、

た。ぼうやは、

「はい。」とげんきにいいました。

それから、ようになりました。ぼうやはいぬをだいじに、げんか

んのこやにいれてねました。あさがきたら、ぼうやはとびおきて、

いぬのところにいきました。いぬは、ちゃんとおきていました。ぼうやは、また一日、いぬといっしょにあそびました。ぼうやは、それから、いぬとばかりあそびました。

以上は、そのころの作品の一例です。「たりないかるた」では、この子の空想の方向やタイプなどがうかがわれますし、「ぼうやといぬ」は、生活童話風な作品で、現実を見るあたたかい目や倫理感などにふれることができます。

ふしぎな山

あるところに、ふしぎな山がありました。うんとべんきょうして、このころとてもいい人が、この山へのぼると、あめや、いろんなものが木になつたり、おかしがはっぱになつてさいています。わ

る人がのぼると、とらがきて、てんとむしノミや、はっぱのゆうれいなどがでる、ふしぎな山です。みなさんがこのおはなしをきくと、ゆめだらうとおもうかもしませんが、ちょっとこのおはなしをきいてごらんなさい。

あるとき、おじいさんが、やつとてつべんにのぼったとき、ばばーん、ばばーんと、すごいおとがきこえました。さつそく、そこらをみると、ふんかで、あちこちばんばんいつているので、おどろいてにげる。そしてその山は、うんどうじょうになりました。みなさん、どうでしよう。

△B 六才六ヶ月作品

子どもらの「作り話」は、このように『あるところに』と書き出されることが多いようでした。『むかしむかし』という、過去感覺から発想は、どうもオトナの専用品で、子どもの心の世界のものではないように思われます。で、私は、この時期の子どもらの童話的産物を『あるところにばなし』と名づけたものでした。

たまたま、ある子どもが書き届けてくれた童話風作品を、ガリ版にしておおせいの子どもの手に渡し、国語の時間に、その読みや、内容についてふれること、それがよい刺激となり、子どもらの記述活動が目にみえて活発になるのでした。

ところがみていくと、このように活発な表現活動は、クラスの子ども全体に、一ように認められるものではなく、ある特別な子供たちに、比較的片寄って見られるのでした。

空想型とでも言えるタイプの子の群があつて、そういう傾向の子の手で、とりわけ多くの作品がもちこまれます。一方では、空想的作品にはとりたてて意向を示さず、相変らずコツコツと、『きょうはこれこれのこととした』式の、経験・行動の記述一本やりの姿勢で、おし通す「生活派」児童もありました。こういう点に、個性や性格のにじんだ興味の方向がうかがえて、おもしろいことでした。ある日、Cが「はる子さんのおつかい」という生活劇風な文をかいでもつてきました。私は早速ガリ版におこして、つぎの日扱いました。このはじめての劇的な文表現がきっかけとなり、Dが追っかけで書いてきたのが――

おともだち

(ゆり子、つくれにむかってさんすうをはじめる。しばらくたつて)

★でる人——おかあさん。ゆり子。きょう子。

★ところ——そと

(ゆり子、そとであそんでいる)

きょう子。ゆり子ちゃん。いいものあげるからおいでよ。

ゆり子。いいものって、なあに。

きょう子。ぬりえよ。

ゆり子。そんなもの、おうちにたくさんあるわ。いらないわ。

きょう子。いらないなら、いいわ。そのかわりあそんであげないわ。

ゆり子。

ゆり子。あそんぐれなくてもいいわ。

おかあさん。ゆり子、はやくいらっしゃい。おやつをあげますか

ら。

(ゆり子、はしってかえる)。

おかあさん。おやつ、おいしいでしょう。

ゆり子。ええ、とてもおいしいわ。

おかあさん。おやつをたべたら、おべんきょうしなさいね。

ゆり子。もうすこし、あそんでからでいいでしよう。

おかあさん。あなたはさつきからあそびどうしでしょう。

ゆり子。じゃあするわ。すこしでいいでしよう。

おかあさん。いいわ。

天の神さまに、私のおどりを、おめにかけたいので、天からおう
ちのべらんだまできてね。

(ゆり子ときょう子 そこにでてくる)。

六歳十一ヶ月作品

この労作が、新しい意欲への火つけ役となり、後をおっかけて幾人もの子供たちから同じ劇形式による『こともばき』がもちこまれてきました。

新しいものに取りくみ、それを消化していくこうという意向の強さには、幾たびも目をみはらされました。模倣の強い子どもたちです。それだけに、望ましい刺激を整理して与えることの必要さと、そうした営みの効果的であることを、はつきり悟ったのでした。どの子の場合でも、このような作話活動は、比較的短い、単純な話からスタートします。

神さまとわたくし

わたしはおにかいで、おどりのわけいこをしているから見にきてね。

それから木よう日は、ほんとの会なのよ。だからおべんともってきてちょうどだい。

私は「こんこん小雪」っていうおどりをするのよ。それは「ごに

おどる人もあるわよ。わたしは夜におどるよ。

神さまさようなら。またあしたね。

〈E。六歳八ヶ月作品〉

神さま相手に、呼びかけ話しかけるといった形のお話も生まれてきます。こうして表現の形も、書く内容も多彩になってきます。

——父親が、借金に追い回され、身を粉にして働いているんじやないか。なんぼ子どもとはいえ、なんといううわづた甘いユメを見ているんだ。こんな自ダラクなゼイタク・ムダはゆるされない。そんなヒマがあるもんか。といつてしまえばそれまでです。

しかし、だからといって、人間の“眞実”的所在を、人間相互の対立や、闘争や抵抗といった激しい動きの中だけに求めるという考え方には、私はにわかに賛成しかねます。オトナとしてもそうですが、とりわけ子どもを、そういう思考や行動の場面にさせまい、閉じこんでしまうことに、多くの疑問をいだきます。

しかし、童話的な虚構の色濃い現実の解釈や思考が、現実のふくんでいる最も解決を必要とする根底的な問題点を、往々にして見のがし、感覚的な皮相的な浅い処理の仕方で、おもしろおかしく通過

へ擦過してしまった危險に陥りやすいことは、たしかに注意されねばならないことです。

そうした注意や戒心をしながらも、なお童話的な解釈や潤色や思考が、これまでいつわりのない眞実な精神の一断面一風景であることを忘れたくないものです。

童話の中で行われる人物の解釈や行動の設定など、それらはすべて作者の、個性の投影であり、願望の表出であると私は思います。

今日の子どもらの多くは、詩を失っております。“美”に驚く心のキハクさには驚くほかありません。これは、やはり一つの人間的な欠陥と見るべきではないでしょうか。しかし生活から遊離した「美」なり「詩」なりは、しょせんは根のない浮き草にすぎません。

勤労の中の“詩”生産の中の“美”——これこそますます発掘されねばならないものです。人間と人間とを結ぶ広い行動のかかわりあいの中から「美」や「詩」が掘りだされることが望みます。

あまだれ

あめがおとをたてないで
さびしそうにふっているので

うたをうたつてやつた

あまだれが

一つおちたら

うたのつづきをわすれた

つぎのあまだれ

まだかいな

＜F＞

目

わたしのめは

いい めだなあ――

めのふたをすると

めの中が くらくなる。

わたしは

ひとりぼっちになる。

めをあけると

ひるのくにになる。　　＜G＞

とんぼ

おぼん近くになると 母は

「とんぼをつかまえてはいけない。」と言ふ。
「とんぼは

ほとけさまをつれてくるからね。」
どのとんぼが

うちの父をつれてくるのだろう。

涼しい野花に 一つ

とまっている

とんぼを見るとなつかしい。　　＜H＞

といった心の動きから、人間としての純粋な感情や思考が、いよいよ深く美しくみがかれてゆくことを信じます。

こうしたコトバにとらえられる心の動きは、実にきびしい“生の炎”といったものです。高まり深まった生活から、泉のようにふきあがる情感のかがやきともいった美しさです。あたたかいなぐさめをしずめた楽しさです。ケンカごで、かみつくように叫びあげるギスギスした大声ではありません。

幸福――そうです、ほんとうの幸福は、道端の雑草にまじり、そのかげにひそかにさく野の花のような、こうした創作活動の中にも（中にだけではありません）あるのではないでしょうか。とらわれず、ゆがまぬ広くゆたかな“生活”的見方から、子供のユメを、正しく・美しく・強く育てるために、子どもたちの心から動きだす「お話し作り」の勉強を、のびのびと開放しておいてやつていいのではないか、と思うのですが、どうでしょうか。

動植物に仮託して、自分の語りたい意味を述べるという表現上の間接的手法が、子どもの場合、どの程度に可能なものであるか、とか、そういう表現をゆるすことが、教育上どんな意義をもつものか、など、表現機制にまつわる重要な微妙な問題がいくつもありましたが、それらについての考えは、他の機会に述べることにしました。

米国における

ACEI 一九五七年度研究大会報告

黒田成子

例年この誌上で紹介しているACEI（国際児童教育協会）について、本年も、ACEI機関誌の五月号を参考にして、報告をしたいと思う。何らかの示唆になれば幸いである。

この会は、本年は、加州、ロスアンゼルス市において、四月二十一日から二十六日まで、米国全土と世界の十三か国から、総計千六百十五人の参加者があった。テーマは「すべての子どもたちが学ぶことのできるように」であった。

会期の中心は、何と言つても、研究討議の行われた第三日目と四日目である。

参加者は四つの大きい班に分れ、それらがさらに、五十六の小グループに分れた。この討議において、既成の解決法をそつくりもらつて帰ろうとするような態度の者は誰にも見受けられず、むしろ、互に意見を交換し合つて熱心に討議をした。

第一班 子どもへの理解を深めるため

この班は十七の小グループに分れた。大部のグループは、まず、子どもを理解す

るべたとして、子どもは、いかに学習し、成長し発達するかという問題に関して、各自の日頃の研究を持ちよつて、さらにこれについて討議した。

あるグループでは、子どもが、ものをおぼえるに当つて、競争心をかりたることが必要な要素であるかどうかという問題が論ぜられたが、純粹な学習のためには、結局、これは、不必要であり、たいして価値がないということになった。

また、あるグループでは、身体障害者や、記憶力の鈍い児童に関しては、カリキュラムの目的や目標を普通児と同じにおくけれど、どちらかといえば、職業教育や、社会教育に重点がおかなければならぬといふことが強調された。そして、こういう級の指導に当るのは、特別な訓練をうけた教師であること、又何よりもこういう障害のある子どもを受入れる雰囲気が必要であることが取り上げられた。

一つのグループでは、教師の仕事が、單に勉強を教えることによどまらず、子ども

の教育や健康に関する資料を集め、これを解放し、家庭や学校や地域社会における人々が、その子どもを理解できるように、援助を与える義務があると言っている。すなわち、そうすることによって子どもの私生活、社会生活における適応をスムーズにさせ、ひいてはその子どもが、将来自重し、法律を守る市民になるというのである。

教科に関して、基本的な勉強は、ぜひ必
要ではあるが、これは単に三Rにとどまら
ず、三C（comprehension, creativity, com
munication）によって意味づけねばならな
いとされた。すなわち、現代の文化の中に
住む子どもたちは、さらに知識と人を理解
し、創造をなし、コミュニケーションができる子
どもにならなければならないというのであ
る。

第三班 よい人間関係を持つことの重 要性

近頃「人間関係」ということがよく言わ
れるようになつたが、これは大変重要なこ
とである。ケベ尔斯は達者な読書家であつ
たし、ヒトラーは名政治家であった。しか
し、技術がすぐれているだけでは不充分で
あった。世の中の困難はすべて、人間関係
によるグループでは、よい人間関係はどう
いうところから培われるであろうかとい
ふことが話し合われた。そして、親しい友だ
ち関係、個人に対する尊重、自由なコミュ
ニケーション、受け入れられているとい
う思い……などがあげられた。

一つのグループでは、人間の乳幼児期
は、非常に長いものであり、文字通り、庇
護を受ける時代であること、この時代に子
どもを取り巻く両親、教師、隣人たちの影
響がどんなに大きいかということが話し合
われた。事実子どもたちは、勉強するとい
う形ではなく、むしろ、文化を受容すると
いう形でおとなたちのことば、価値感、技
能などを感じとつていくのである。

他のグループでは、教師の自己満足的な
態度を反省している。すなわち、私たち人
間は、思惟し、創作し、知性によって生活
をかえていく特権を与えられているのに、
教育ということについては、あまり深く考
えていないようである。いったい子どもた
ちを年齢別にするのに、一か年で区切るこ
とが、かならずもしもよいことであろうか、
平等を唱えながら、グーリング、設定ク
ラス、評価、採点、などの美名にかられて
不平等を行っていないだろうか。一人の子

どもを他の子どもと比較しながら欠点を探
すのが正しい教育であろうか。家庭への連
絡や報告が、よくなされているだろうか。
など反省すべき点があげられた。

しつけということについては、しばし

ば、取り上げられるが、解決のむずかしい
問題であることが認められた。あるグル
ープでは、しつけの中では、自分で自分自身
をしつけることが、もっともよい方法であ
る。そのため、子どもたちの周囲に健全
な環境、理解あるおとなたち、民主的な運
営を可能にする機会を与えること、そし
て、その子どもたちの集団できめられたき
まりを受入れることができるように誘導す
ることがあげられた。

この班では、道徳教育の問題も取り上げ
られたが、これは先を急いでではできないこ
とで、むしろ、子どもが成熟するにつれ
て、毎日の生活の中で、じょじょに道徳意
識が培われていくのである。そして道徳教
育においては、子どもの中に、内心的な力
をもたせることと、おとなも生きたよい模

範を示すことと、この二つの事実を両立させることが必要である。また、所属感を持たせること、グループの一員であるという

感じ、自分はグループに寄与することができること、という信念が道徳教育の基礎づけに必須条件であるとしている。何よりも、子どもたちを、問題のある、そのままの人間として受け入れ、気持と、人間一般の成長に

対する信頼感が必要であるとも言っている。そして、人間の成長発達途上における子どもの行動に表れる一つ一つの現象について、むやみに反対をしなければ、その問題は、自然に解決されることや、子どものつむじ曲りや片意地の性質は反対や対立的

な感情から生じることなど、わかりきったことはあるが、大切な基本的問題として熱心に話し合われた。

第四班 創造的経験を通して学ぶ

二百五十人から成るこの班は音楽、美術、演劇など十のグループにわかつた。そのうち、二百人程は実地見学のため、各幼稚園、保育園、小学校へ出かけた。各グル

ープでは討議をしたり、デモンストレーションを併用したりした。

この班の中で、各グループのとり上げた専門科目はそれぞれ異っていたが、第一に子どもの創造性を培うことが大切であると

いうことに関しては一致点を見出した。すなわち、創造性とは個性に関する事柄であるから、環境が非常に大切であること、そ

して各児童が、各自の方法により、各自の創造性を培うことができるよう環境が強く希望された。しかも、この環境の中で、

もっとも大切なものは教師であるとされた。教師は、子どもたちの製作したもの

が、どのようなものであろうと、その実真

な意図を暖かく受け入れる人間でなければならぬ。反対に、子どもたちの言うことを

受けつけない環境は創造性をはばむものである点が強調された。

第一のグループ

今から四十三年後の紀元二、〇〇〇〇年

は、現在の小学校一年生が、五十才になっているときである。このグループでは、社会学、建築学、人類学の権威者をパネルに

非常にためになつたと言う報告があった。教えることしかできない教師たちは、もつ

とこういう経験を持つことが大切である。こういう経験すらないとすれば、どうして子どもたちを理解して、その創造性を引き出すようなことができようか。

学校訪問はロスアンゼルス市中の学校であつた。はじめに学校のことに関して、一

通りの紹介があり、あとは各自興味のある年齢層を選んで、自由に見学して廻った。

全体から見て、学校訪問は大変貴重であった。あるグループは訪問する学校の校長や

園長も、このACEIの研究グループに加入るべきであると言つた。

第四回目には「教育のための新しき展開」という題のもとに四つのディスカッショ

ングループが会を開いた。

招き、未来の教育界について考えようとした。

形式の固定した教育法の行われた一九二〇年頃にくらべると、現今の中学校は、子どもの欲求というものに重点をおいている時代である。こういう観点から、将来の学校は、もっと拡大したスペースを持つた校舎や校庭が考えられよう。最低十エーカー位。

(注エーカーは四〇四六、八平方メートル) 教室は年齢別により大きさを変える。学年別といふような分け方はなくなる。校庭にはジャングルの森になぞらえたものや、占星学の陳列物や世界中の時間を知らせる時計などがおられる。

文明の進歩するにつれて、オートメーション時代がますますさかんになる。このため、従来とは異った問題が起つてくる。すなわち便利すぎる生活から出て来る余暇の利用、文化の停滞、個人の集団との関係、過度の民族優越感、自己満足感などが問題としてあげられた。そして、米国独特の悩みであろうが、いかにして他人への思

いやりを育てることができるかという問題を真剣に考え合った。

第二のグループ
このグループもパネルを行つた。精神病学者、人類学者、技術者の三人の指導者は、それぞれ、自分の専門の立場から教育は、それぞれ、自分の専門の立場から教育という問題を観察した。

技術者は、もっと子どもの興味を科学に向けなければならないこと、そして、その際、科学の基本的な勉強にとどまらないで、これらのものと人間性との関連について教育する必要があると指摘した。

第三のグループ
三人の専門家たちは、専門の立場は異つていたが、期せずして、人間性をつくる創造性を養うという、同じ目標に焦点が向けられた。

まず司会者が、この複雑な世代について、個々の子どもの姿に目をとめる必要があることを話した。パネルの指導者の一人は、ある補導所の監督者であった。彼は夥しい移民の入国について、経済的にも、精神的にも、不安な家庭生活を送っている者が多いが、その中でも、補導所に委託される者のうち六十二パーセントは両親の間の関係が不満足であることについて話した。

このグループでは、個々の子どもの持つ

も大切な哲学的研究は、このような個人を無視する時代にあって、いかにして人間が所属感を得られるかという問題であると述べた。創造性を持ち、自由を持つことができるように、学校はもっと、子どもたちに、所属感を与えるなければならないというのである。

問題を発見し、その指導に当るのはいったい誰かという問題について議論がわいた。

それは受持教師か、または、相談所の先生か、ということで議論が分れたが、しかし、現在の教師養成を行っている大学の卒業生の状態では不充分であるという点で一致した。また大学の四年の間にもっと精神衛生や心理学の勉強が必要である点もあげられた。

第四のグループ

このグループにおいても、子どもは性好奇心をもっているにもかかわらず、画一的な学校教育が、この芽をそこない、子どもの創造性が失われてしまうことが指摘された。そして、教師は子ども一人一人の発達のテンポに合せて指導していくことの必要が強調された。

また、子どもの学習に当って、教師情緒的な面がひじょうに大きな影響を与える事実を考える時にもっと優秀な教師を教育しなければならないこと、また加えて、養成に当る大学はもっと精神衛生の研究をと

り上げてほしいという声がここでも高かった。

子どもの創造性をはばむものとして、クラスの人数が多い点が問題となり、一組三十五人から四十人を、二十人から二十五人程度にする必要があるといわれた。

第四日目の夜は、「国際の夕べ」が催された。オーストラリア、ブラジル、英國、エチオピア、南アフリカ、^{泰國}ウルグアイなどから来た教師や留学生、代表者たちが、各国の服装をつけて壇の上に列んだ。その夜マーシャル・プランで有名なボール、ホーフマン氏が講演を行った。

「……アメリカ国民の中に、外国援助を減額せよ」という声があるが、それは、まったく時代おくれである第二次世界大戦以後十八か国的新しい国々が独立を宣言し、政治的自由、飢餓からの救いと、健康保証とを求めてきた。今や、物質的な援助のみならず、それにもまして知的精神的援助を求める。……」

ホ氏は米国はこうした国々を援助しない

ではいられない立場に到達しているわけを説明し、共存共榮の理を説いた。

第五日目は地方別に分れ、朝食を共にして、食後各地方における活動に関して報告の交換などがあった。その他、支部会や、各種の委員会、学生部会、また中学校、小学校、幼稚園、ナースリーなどの会があつた。

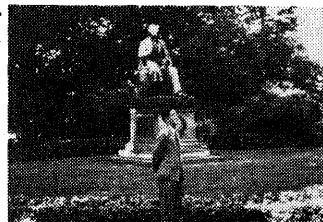
最後の夜は、カリフォルニア・ナイトと称して親ばくの夜がくりひろげられた。食卓の装飾にも加州の特色を盛り、ロス市の小学校の子どもたちが造ったという大きいかごには豊富な果物が美しく飾られてあつた。歌や、面白い話しゃや、ユゴースラビヤや日本人のダンスなどがあり、研究や討論に疲れた人々はこれらの余興を見て、楽しい一夜を過した。土地の小学生も多数出演した。

以上、ACEIの機関誌をたよりにし、六日間にわたる研究大会の多彩なプログラムを省述したが、この報告はごく部分的なものであることを記しておく。

(東洋英和短大助教授)

デンマークの旅

平井 信義



デンマークといえば、どなたもアンデルセンを思い起されるであろう。私がアンデルセンの銅像のそばに立ったのは、七月の終りの夕方であった。公園の一隅の梢の高い木々を背にして、大きな石の台の上に、アンデルセンの姿を仰ぐことができたが、すでに夕暮の日射は木々にさえぎられ、黒い蔭を彼の像の上に落し、銅像を染めている緑青が青黒く光っていた。

芝生にさえぎられて、銅像の真下に近付くことができなかつたので、半円になつている道を二三度往き来したあと、私はベンチについている木の台に腰をおろした。そして、再びアンデルセンの姿を見上げたのであつた。

その時の私の心には、何か彼からささやいてもらいたい気持があつた。何か言ってもらいたい気持があつた。しかし、彼はじつと口を開じたままでいた。長いマントの右側から出した手で、開いた本を支え、それを読むでもなく、彼の目は半ば上目がちに空を見詰めているようであつた。再び私は、彼の声に耳を傾けた。しかし、響き返つて来るのは、公園の右左を行き交う町の騒音であつた。自動車の警笛があつた。電車の走る音があつた。

この騒音に打勝つて、アンデルセンから囁きをきくために、私は自分の心を集中しようとした。しかし、私の耳には一層強く町の騒音がきえてくるばかりであった。私は、焦々した。

こうした焦々した気持になつたのは、これが始めてではなかつた。三月の旅で、チューリッヒ湖畔に立つた時にも感じた気持の乱れであった。その時も湖畔に立つたのはすでに夕暮れで、西の山肌から流れで下りてくる最後の光が、湖面にひたひたと漂つていた。

湖水につき出たコンクリートの船着き場を歩み進んでいくと、柵にとまっていたかもめが、次々と飛立つて、あるものは夕焼の空高く、舞い上り、あるものは湖面に下りると、大きな波紋を描いたりした。



向いの岸には、高いボプラの木が聳えていたが、やがて夕靄が立ち籠めてくると、うす墨に染まり、漸くともり始めた家々の窓の灯りと共にゆるぎ始めていた。そうした光景の後には、オーストリアへ続くアルプスの連峰が雪を抱いて続いている筈であったが、空高く涌き立っている霞が、その所在を示してくれるに過ぎなかつた。岸辺に沿つては、数百羽となく点々と、かも・あひる・おしどりなどの水鳥が、それぞれの營みで、あるいは水の中に頭を入れ、あるいは飛び立ち、あるいははたはたと飛び交つてゐた。私の目は飽くことなく、それらを追うことができた。

私は、遂に柵に背をもたせて、コンクリートの上に腰を下した。もうしばらくの時をここで楽しもうと思つたのである。

だが、その時、背後に鐘の音をきくと、町が騒然として來た。その騒音は恐らく前からあつたものに違ひないが、鐘の音と共に私を抱えたのである。ごつといふ漠然として騒音の中に混つて自動車のエンジンを吹かす音や、バスや電車の各種の警笛や、それらが大地を踏んでいく音がきこえてくる。私にはこうした騒音が、小波を立てて、湖水一面に拡していくかのようにさえ感じた。もう一度、

湖水につけたコンクリートの船着き場を歩み進んでいくと、柵にとまっていたかもめが、次々と飛立つて、あるものは夕焼の空高く、舞い上り、あるものは湖面に下りると、大きな波紋を描いたりした。

向いの岸には、高いボプラの木が聳えていたが、やがて夕靄が立ち籠めてくると、うす墨に染まり、漸くともり始めた家々の窓の灯りと共にゆるぎ始めていた。そうした光景の後には、オーストリアへ続くアルプスの連峰が雪を抱いて続いている筈であったが、空高く涌き立っている霞が、その所在を示してくれるに過ぎなかつた。岸辺に沿つては、数百羽となく点々と、かも・あひる・おしどりなどの水鳥が、それぞれの營みで、あるいは水の中に頭を入れ、あるいは飛び立ち、あるいははたはたと飛び交つてゐた。私の目は飽くことなく、それらを追うことができた。

私は、遂に柵に背をもたせて、コンクリートの上に腰を下した。もうしばらくの時をここで楽しもうと思つたのである。

だが、その時、背後に鐘の音をきくと、町が騒然として來た。その騒音は恐らく前からあつたものに違ひないが、鐘の音と共に私を抱えたのである。ごつといふ漠然として騒音の中に混つて自動車のエンジンを吹かす音や、バスや電車の各種の警笛や、それらが大地を踏んでいく音がきこえてくる。私にはこうした騒音が、小波を立てて、湖水一面に拡していくかのようにさえ感じた。もう一度、

湖水の静寂を味う氣持に立ち帰ろうとすればする程、街の騒音は涌き立つてくるようで、心なし、水面を楽しんでいる水鳥までが、焦立ち始めたようであつた。

「街の騒音が、人間の姿、子どもたちの姿を変えていくように思えてならないのです」——チユーリッヒ大学で数時間前に話し合つた女のケースワーカーのことばが思い出される。「自動車、電車など、文明の利器の発達に伴つて、人間は日常の生活の中で、静寂を楽しむ心を失つていくように思えるのです。恐らく、今の都会の子どもたちが成人になる頃には、街の騒音が生活の一部になつて、もはや、静寂を楽しむ心を失つてしまうのではないか」と中年を過ぎて、金髪に白髪をまじえたその婦人の顔には、話しが進むにつれて、次第に深い皺が刻まれるようであつた。

「近代文明の所産を持つことが、本当に幸福なことなのかどうか、わからぬ気持がしますね。近代文明の温床はアメリカですが、アメリカ人を見ていて、何か氣の毒な感じがしてくるのです。テレビ、ラジオ、映画、その他家庭の中に備えられるいろいろな器具。そうしたものを持つことが、かえつてその人の心を傷付けてはいないでしようか。ものをじつと見詰め、ものを探し、ものを探して、強烈な感覚的な刺戟を求める方向をとっていますね。私もしばらくアメリカにいましたが、ラジオ・テレビのスイッチをひねれば、騒々しいジャズです。しかも、こうした騒々しさに耐え得ない人間は、取のこされたように感じてしまう国なのです。」彼女は両腕をゆるやかに広げてみて、軽く肩をすくめるような格好をして、

「その点、東洋人の生活の中には、静寂を愛する態度が残つてゐる

と聞いています。私にはそれが非常に魅力的で、是非一度、東洋を訪れてみたいと思っています」——しかし、私の心には、それに合拍を打つだけの自信がなかった。



「問題の子どもたちを見ていると、——と彼女は、再びことばをつけないでいつた。「どうにかして、彼らに静寂を味う心を与えるたいと思いますね。彼らは、なかなかそれになじめないのでです。」

「私は、問題を持つた子どもの増加が、戦争の結果だと思っていましたが、日本からはるばるやって来てヨーロッパを見たとき、そして、ヨーロッパの戦争のなかった国にも問題児が増加しているときいたとき、問題の子どもの原因は、もつともっと根深いところにあることがわかりました。」

「そうですとも。このイスイにだって、問題の子どもは年々増加しているのです。文明国といわれる国々に多い現象であり、都会に多い現象であるのですから、どうしても現代文明の所産である器械文明に、その源を求めないと私も思っているのです。」

「私は、ドイツでも、貴女のお国でも、日本の禅についてきかれるので驚いています。」

「実は、私もブルンナー教授から『禅』についての講演をきかされ、非常に感動したものの一人です。東洋人の家庭生活の中に、どのように禅の本質がとり入れられているか。私が東洋にいってみた、日本を訪れてみたいと思ったのも、それが動機です。」

その時、私をこれから「問題児の施設」へ案内をしようという若

い医者がはいって来た。その部屋の空氣は一変した。



「あなたも忙しい旅をしていられるのですね。どうか、収穫のありますように……」とひと言いいそえると、彼女は忙しそうに事務机から書類を出して、若い医者に渡し、声高く、収容施設の子どもたちの状況について打合せを行つた。

当時の子どもを頭に描いて書いた彼の童話を、今の子どもたちに、もう一度与えようとするだろうか。

このイスイの女の人の話は、その後、しばしば私の心に蘇つてきた。静寂と立ち向かおうと私が身構えを作っている時、何か騒音にわざわざいされると、決つて思い出されるのが、彼女の言つた断章であつた。

アンデルセンの銅像の前に坐つたまま、私はこうした思いに耽つていた。私のように、こうしてアンデルセンの銅像の前に坐つて、もの思いに耽つた人たちは何千人、何万人あるか知れない。アンデルセンの銅像はそうした人たちを見ながら、どんな思いをしたことであろうか。彼は、すでに数十年の歴史のうつり変りを静かに眺めていたはずである。そうした歴史のうつり変りの中から、子どもたちのために開けてくる未来の世界をどのように予見しているであろうか。また、どのような社会を、子どもたちのために願つてゐるであろうか。

どんどんと落ちてきた夕闇の冷たさを感じながら、私はいつまでもベンチに腰をおろしたまま、アンデルセンの像を見上げていた。

保育の歴史を勉強する会著

「保母——その生活の歴史」

中村允子

この本を読んでまず感じたことは、「なかまづくり」とか「うたごえ」とかいうことばで代表される、自ら政治意識に目ざめている、と称する人たちに共通な思想をもつて貫かれていることである。そういうよりは、現代のこの著者たち

の保母に対する考え方からみた保母の歴史といえよう。
まずここで使われている“保母”ということばについてみると、從来は保母という名称は、幼稚園・保育所に共通なものであったが、児童福祉法と学校教育法の施行以来、幼稚園は教諭となり、児童福祉法によりさだめられた施設に從事する女子はすべて保母と呼ばれることになった。ここにおいて、保母の定義はいささか不鮮明である。幼児に直接関係のある保母をとりあげるにしても、託児所ばかりでなく施設保母の生活についてももつととりあげられねばならないと思う。

さて、この本は、保母たちの生活の実態をどの程度正確に伝えてくれるだろうか。もちろん、歴史を書くには、一貫した筋、解釈が必要である。けれども、あくまで史実に忠実でなければならない。著者の思想に種々の角度から必要となるだけを撰択し、それに解釈を加えて、それを歴史ということができるだろうか。これを良く解釈するなら、集っただけの資料で何とかまとめあげたということであろう。

「幼児教育」ということの面だけからみいかねばならない」といふ野からみいいながら、全くせまい視野、プロレタリア教育運動の立場から、あらゆる資料がとりあげられる。私は、公平な立場からみて、いいながら、全くせまい視野、プロレタリア教育運動の立場から、あらゆる資料がとりあげられる。私は、公平な立場からみて、いいながら、全くせまい視野、プロレタリア教育運動の立場から、あらゆる資料がとりあげられる。私は、公平な立場からみて、いいながら、全くせまい視野、プロレタリア教育運動の立場から、あらゆる資料がとりあげられる。私は、公平な立場からみて、いいながら、全くせまい視野、プロレタリア教育運動の立場から、あらゆる資料がとりあげられる。私は、この本を日本における児童の社会福祉施設、幼稚園教育、そしてそれに従事した人たちを論ずるに、宗教的背景を抜きにして考えることはできないと考える。天主公教によつて、明治五年に董女学院、明治七年に浦上養育院と孤児と貧児のための施設が開かれており、明治十一年から四十五年までの育児事業施設数は、キリスト教二三、仏教二四、その他六七となっているが、

(生江孝之著日本基督教社会事業史)この本ではこれに従事した保母たちの生活にはほとんどふれていないのは片手落ちである。知らないことは片手落ちである。が、その人間らしい生活とは、後がきに丸尾ひさ氏がいっているよ

うな「勤めがすんだら映画をみたり」といった生活なのか、経済的に時間的にゆとりのある、下すみでない生活、これをすることによつて保母はほんとうにしあわせになれるだろうか。私は、この本をしての価値よりも、著者たちの保母論の一端を知りえたと思う。それと同時に、著者たちが恐れていた軍国主義・全体主義以上に、血の戦いへの危険性をはらんでいる現代、そして彼らの理想とする社会の矛盾を悟らすことのできない現代、といった二十世紀の一側面を私は痛切に感ずる。保母といわば、教育者のすべてが、「人間の生死との問題を追求し、解決しなくては、教育は何年たってもからまわりをしているにすぎない」と私は考える。

(お茶の水女子大学児童学研究室)

保育界の巨人

アルワイン先生をおしみて

高崎能樹



若き日の美しいアルワイン先生が、はでな洋服を着て、自家用の馬車に乗って、毎日曜芝教会に出席せられた頃から私は先生と懇意でありました。……全く貴族的な生活で、麹町の御殿の奥からす一つとぬけ出して来られたお姫様の姿と、後の肥満型の先生とは似もつかぬものでした。

その美しいお姫様が、芝教会で日曜学校の幼稚科を教えられ、私がその上の一年のクラスを教えていましたので、教材や教法の問題で、先生の幼児教育論と私の宗教々育論とは度々衝突して論議が沸騰しました。つまり先生は私の手ごわい論敵であったのです。

その後私は牧師となつて五か年間九州に参りましたが、その間幼児教育の研究に没頭した末、これが人間教育の基であることを確信して、これを一生涯の方針として進むと堅く決意して再び上京しました。

そしてアルワイン先生を市が谷見附上の玉成保育養成所に訪うて『私をこの学校に入れてください』と頼みました。ところが先生は言下に『入れてあげません。あなたは男だから駄目です』と断わられ、『それでは、見学させて下さい』と懇請しますと『見学でしたら許します。邪魔にならぬように見学しなさい』と漸く許可を得ました。

こうして私は、フレーベルの恩物の扱い方や、母と子の遊びの解説やらを先生に学んで全く感激してしまいました。とくに子どもへのお話の巧妙なことは、天下に比類なしで、私は大いに学びました。

先生にも憂鬱時代がありました。それは小さな恩物などは有害だ。もっと大筋運動の発達を自當てにヒルの積木や、箱積木を用いよ……との主張が盛んになつたことあります。しかしジャーナルドは『親指と人差指とで物をつまみ得る能力が出たら、小筋運動を発達させよ。それが知能の発達を促進する』と主張しています。私はアルワイン先生にこれを示して恩物を遠ざけないように進言しました。先生は非常に喜んで『あなたは矢張り同志の友だ』と感謝と友情とを表明してくださいました。

教諭養成におけるアルワイン先生の『厳格主義と清潔主義』は本当に幼児を敬愛するまことにこの表われで『子どもは神の子』と思えどこそあります。なおアルワイン先生の愛はエロスの愛でなく、アガベーの愛で、神の造り給えるすべての物にゆき届いていたことを知ると『げに保育界の巨人であった』と云わねばならぬと思います。

アルワイン先生が、モンテッソリーの研究に熱心されたり、コロ

ンビヤ、コロンビヤと新知識に突進せられたりなさると、私もそれにならって熱心しましたが、しかしアルワイン先生の真生命はむしろフレーベルの『神本主義』であつて決して浮薄な『人生主義』ではありませんでした。

(阿佐谷幼稚園々長)

保育の友

子どもたちがリズムにあわせて飛びまわっている遊戯の時、いつもピアノを弾きながらかわいいなあという気持が胸をついてくる。しかし、ひとりひとりの子どもの動きをじっと追っていくと、中には遊戯にたえられない病弱な子がいるかと思えば、

もとと積極的な運動をさせる必要のある子もあり、個人差の大きいことに気がつく。温室育ちの子どもをつくるなら、こうしたことでも表面にでることは少ない。しかし指導の力で、すこしでも強く丈夫なからだに鍛えようとするときには、必ず健康保育の問題にぶつかるのである。健康保育の盲点ということ、これが六月号の特集である。まず五人の保育経験者たちの対談によ

つて、現在つきあつたっている健康保育の問題点が出されている。(1)積極的な運動をさせようとするとき、どの程度までという度のきめ方、(2)子どもの疲れの見わけ方、(3)必要な運動量について、(4)健康保育に必要な環境・施設、(5)病氣の子の扱い、(6)けがの防止、(7)左ききの子などの問題がでている。

これに対しても専門医がそれぞれ問題解決の方向を与えていた。たとえば平井信義氏は大切なのは客観的な尺度よりも、現実の事態にそくし、保育者同志の討論によつて、必要な計画や処置をしてほしいと

弱い子どもを丈夫にする工夫として、病氣にかかりやすい子、顔色のわるい子の病状の原因と対策について述べている。七月号は、全国保育大研究会準備号として、この八月に敦賀で開かれる保育園大会の分科会の研究課題が掲載されている。「保育所の児童を必身ともに健やかに育成するため」いう全体テーマのもとに、十の分科会に分かれている。1.乳児保育、健康管理、3.給食、4.問題のある児童、5.環境整備、6.自由あそび、7.保育計画、8.保育に欠ける子どもと家庭、9.保母の生活、10.保育所の運営及び管理。討議の課題につ

吉見静江氏は病後の子どもの保育は医師の承認をえてからと助言している。しかしさ실には家庭でゆっくり病氣を看護してやることができる、自転車で子どもを運び、そつと園にあづけていくなどという現実の容易ならざる姿を感じられる。

この号は健康保育に関連して、前から続いている「子どもと健康」(その5)欄は弱い子どもを丈夫にする工夫として、病氣にかかりやすい子、顔色のわるい子の病状の原因と対策について述べている。

七月号は、全国保育大研究会準備号として、この八月に敦賀で開かれる保育園大会の分科会の研究課題が掲載されている。

「保育所の児童を必身ともに健やかに育成するため」いう全体テーマのもとに、十の分科会に分かれている。1.乳児保育、健康管理、3.給食、4.問題のある児童、5.環境整備、6.自由あそび、7.保育計画、8.保育に欠ける子どもと家庭、9.保母の生活、10.保育所の運営及び管理。討議の課題につ

いて予めこれだけの準備をして、大会に臨むのは賢明である。どのような討議がおこなわれるか、楽しみにしていよう。保育所と幼稚園の二元性は歴史的な問題であるが、この分科の分け方にについてみても、第六分科「自由あそび」は幼稚園と共通な問題であり、第七分科「保育に欠ける子どもと家庭」は保育所に特に必要な問題である。保育所には保育所特有の問題があるとともに、幼稚園と共通の問題も多いことを知ることができる。幼稚園と共通の問題が多いなら、幼稚園と保育所とはもっとお互に交流し合い、理解し合つたらよいのにと思う。

第九分科で「保母の生活」がとり上げられているのは重要である。保母の職場がもつと合理化され、保母の生活がもつと豊かなものになるために、どのような討議がなされ、何より対策が語られるか、期待したい。

「自由あそび」は幼稚園と共通な問題であり、第七分科「保育に欠ける子どもと家庭」は保育所に特に必要な問題である。保育所には保育所特有の問題があるとともに、幼稚園と共通の問題も多いことを知ることができる。幼稚園と共通の問題が多いなら、幼稚園と保育所とはもっとお互に交流し合い、理解し合つたらよいのにと思う。

六月号には、「自然の指導はどんな環境でもできる」が特集され、自然の環境に恵まれていない園での具体的な事例なども書かれている。どんなに環境に恵まれていなくとも、設備がない園でも、自然の指導についてあらためて考えてみたい問題があると思うので一読をおすすめする。

宮原誠一氏の「幼稚園や保育園の友に」

は、心して読みたいものの一つであった。

人間的にみずみずしい教師になるために、文学作品を読もう。ちょっととしたヒマに、

機敏に小説や詩集にとりつくこと。そのう

ちにゆっくりとではなく、いますぐにとり

つくこと。気のむくものをひそかにひとり

で読みあじわうこと。みずから情緒をみず

みずしいものにするために。

世界の子どもたち、今月はフランスの場

合で、中でもおもしろかったのは、しつけ

は親だけのものでないという点で、日本で

の通念では、しつけは母親のするもの、教

育は学校するものと思いつまっているよ

うで、他人がよその家の子に何とか言つても悪いように思われているが、フランスではしつけは母親だけのものではなくて、母親の見ていないところでは、そばにいるおとなが責任を持たなくてはならない。子どもは親を通さずに直接社会からもしつけを受けるとのこと。この点日本でも大いに学びたいところであると思う。

七月号には夏期保育を楽しくと題して、夏期保育のもつ意味、具体的な方法、記録を中心して特集している。

「ガラクタ公園をつくれ」神崎清氏の時評

も興味深いものである。デンマルクの建築技師が考えだしたガラクタ公園——いたずらのできる児童遊園地。ブランコやすべり台

ではなく、空地においてあるのは、レンガや

板片のガラクタである。しかし、おおぜい

の子どもが集まって、そのレンガや、板片

を組み合せて、自由自在に組み立て遊ん

でいる。わからないことは公園の指導者の

おじさんに教えてもらって仕事をつづけて

いく。子どもはおもしろくてたまらない。

教育的にみても、創造的であり建設的であり生活的である。新しい遊び場をつくる運動では、たんに遊び場をふやすだけでなく、古い固定観念を打破して、子どもの自由な創造力をのばしていく、ガラクタ公園式の構想を大いにとり入れてみたいと強調しておられる。

幼児と保育

六月号の「型にとらわれぬ幼児教育」という特集は、無難な安易な保育に流れることに反省をし、何かもっと心からの躍動のある保育をしたい、もっと子どもの生命に触れたほんとうの保育をしたい、と願っている身にとっては、一応の興味で手にとめて読んだのであった。

「むしろ動物に近い育て方が必要」という木田文夫氏の所論には心からの共感をおぼえた。「神経質すぎる、子どもの世話をや

りすぎると、これが日本のお母さんに共通した欠点です。」「幼児の心理を理解していない」それよりも前に、まず「家庭心理学が必要」などなど教師にとつても母親にとつても是非一読をすすめたい。

つづいて型にとらわれぬ幼児教育の実践例が二、三の幼稚園からあげられているが、これらは一つの参考ではあるが、これも魂のあつてのことと、この形だけを真似されるようになつたらどんなものであろうと思案されたりもする。

「幼児はこんなところで遊んでいる」というのが、七月号の特集である。

夏休みを迎えるのにふさわしいテーマと思つたが、内容をみると、夏休み中の指導を示唆するにとどまらない。家庭・施設以外の子どもの生活ルボルタージュ「誠ちゃんを追つて」は、家庭であまりかまわれない子どもたちが、彼等なりに、いろいろな遊び場を探し、遊びを工夫して楽しんでいる姿をおもしろくとらえ、子どもの世界を見て

のぞかせてくれる。子どものこのような世界を頭から否定してしまわずに、愛情をもつて眺めることから、保育の妙味も増していくのではないかとと思われる。

「おとな見ていなくて、(関計夫)、では、このような子どもの姿に対して暖かい目で指導が説かれている。

子どもたちの生活の中に問題が起つた場合、母親がとかく原因と考えがちな「わるいお友だち」についての辰見敏夫氏の意見は、母親にも、ぜひ一読をすすめたい。

その他、「子どもの道徳」「子どもに与える話のえらび方」「楽しい夏のあそびの環境を」「紙鉄棒」などと共に、毎月のことながら、六領域にわたった指導技術の解説も、大へん参考になる。

保育ノート

六月号は「保母さんのからだ・保母さんのレクリエーション」ということについて

の特集で、時期的にとり上げられている。

幼児を扱うには心身ともに健康でなくては正しい意味の保育はできない、といわれる。保育者は毎日子どもの健康状態をよく観察し十二分の注意を払っているが、自らの身体については気にしながらもなかなか最上の状態を保てないというのが現状である。それほど保育の仕事は、はた目につくよりも労力もついやすいし、細かい神経もつかうものなので、記事としてはのつていてないが、これをいやす、レクリエーションといふものが考えられていいのはたいへんによいことだと思う。緊張の連続が不可能なことはいうまでもない。今までのことをすっかりと忘れて気分の転換をはかる」とこそ、次への元気もわくものであることを考えて、自分の環境にあつた、許す範囲のレクリエーションを考えて普段の緊張をほどきたいものである。

座談会「保育者と年令」はそれぞれの年令にある人の考え方をわかつて面白い。そ

れとともにこの仕事にたづさわっている人たちが、本当に楽しんで毎日をすごしていることが感じられて、子どものたちの幸福を今更のようにうれしく思つた。

七月号は「保育に欠けた子ども」についての特集号。これを分けると、

(1) 母親が十分子どもをそだてることができ

ない場合。

(2) めぐまれすぎた環境にそだつた子どもの場合。この二つの全然反対のよくなき場合。

もの姿が書かれている。

(1) の場合は「貧困である」とか「家が忙しくて手が届かない」などすぐ考えられる。この場合は教育よりもまづ愛撫が必要である。

(2) の場合は

・経済的、物質的環境の過剰

・両親の教育意識の過剰

・両親其の他の周囲の人びとにによる愛情の過剰

・子どもに対する期待の過剰

これとともにこの仕事にたづさわっているくない子どもができる上り易い。

この場合はしぜんの子どもの世界にかえり更のよううれしく思つた。

七月号は「保育に欠けた子ども」についての特集号。これを分けると、

(1) 母親が十分子どもをそだてることができ

ない場合。

保育の手帖

保育の手帳で最も力を入れている年間保育計画に対して、経験深い実際指導家から意見を述べられ、それに保育案研究委員が回答するという形式が今月からとられる。六月号では東京都公立幼稚園早塚氏の意見の中から次の三点をとりだして三木安正氏が答えている。「『年間保育計画』が社会性に重点を置いている」ということ。二、「年間保育計画」は理解しにくい点が多いのではないかということ。三、グループ活動に対するねらいが高度でありすぎるの

こういうめぐまれすぎたため子どももらしの上のようなことが、いろいろの立場から書かれている。

この場合はしぜんの子どもの世界にかえり社会性を養い自立の気持をつけるよう家庭とともに歩んでいくことが必要である。

ではないかということ。

七月号では千葉大学付属幼稚園富田氏の質問で次の方が挙げられている。一、望ましいバーソナリティーの具体像について。二、保育案の形式に関して、「集団生活の発達」と、それに応じた「指導の要領」があれば「六領域に分けた指導の重点」などはいらないのではないか。三、幼稚園の指導と保育園の指導の区別。四、この年間計画の展開について、主題や単元の考え方。

紙面の都合で回答の要約は省略するが、

これら批判や意見の交流は、研究委員の努力の結果が一方的に偏ることなく、さらによいものが生れてくる基盤となり、回答を読んでいると短いことばの印刷に至るまでの考え方や経過がよくわかるのである。

六・七月号と連載されているものに「幼児の造形ことば」がある。井手則雄氏。幼児の造形指導がとく困難なものだつ

たところから、精神分析の考え方にもとづいて描画による性格診断がはやったが、保育の中の造形活動は、幼児の生活と成長に関するということを忘れてはならない。

子どもの絵にあらわれる性格的なものも、先天的なものより、生れてこの方ふれわってきたおり、したがつて幼児の場合はなかまとともに行動しながらことばを使つて交わり、自分の考えや感情や欲求などを分けあつたり、ぶつけあつたりして発達していく。

幼児の造形活動とことばの発達の関連の研究は体系的なものは少いが、ローレンフエルドによる描画の発達段階を紹介し、次に「新しい画の会で日本の子どもの場合の区分を挙げておられる。この段階にしたがつてことばの表現発達との関係をみられていく。結論からいうと、ことばと造形の二つの活動は相互に支えあつてゐる。ことば

と描画の発達関係はつりあつてゐる。といふことが、くわしくかかれ、次号につづいている。

外に坂元彦太郎氏の『幼児の教育を考える』が連載されている。

保育案作成がこの誌の編集中心になつており、さらに研究を重ねられることを願つとともに、その他の保育の窓や教養講座なども、よりうるおいのあるものをと、思うのである。

保育

村山貞雄氏の『入園後の問題』ではその

点私どもの参考になり、また指導の方向を

心理的に診断し示してくれる。

いろいろと指導する上にも、ある時は賞め、ある時は叱ると手段を考慮する。その中でも叱ることはなかなかむずかしい。毎号続いている、早川元三氏『じょうずな叱り方』では、感情形成についてと題し叱り方を指示してくださり、ほめることと叱ることとの関係がよくわかる。

研究物としては、神田寺幼稚園福永かをり氏の『二年保育児と三年保育児の差について』も前号の続きだが、まとめとして、その差がよくかかれている。

幼児を理解するということは、私どもが常に考えまた悩むところだが、大西憲明氏がこの号から『幼児をどのように理解するか』と題して書いていられる。記録することが先決で、指導要録も大いに活用し一つの次の保育への資料となる。

卒業のときのみと考えていた指導要録もこのように活用すれば事務的なものから活

が生れてくるであろう。

七月号は、『夏の保育計画と水あそび』栗山晴光氏、『科学生活の指導』遠藤孝子氏、『夏休みを前にみる私どもにはこの二つが目をひく。観察は大切であることは知っているが、ともすると学校的色彩をかもしだしてしまう。何とか自然と幼児の生活の中に観察を科学生活をと誰もがねがい考え、研究することであろう。

栗山氏のは私どもへ観察の材料を提供してくれくださつてあるが、私どもは材料としてよみ、これをこのまま利用しないで、何か工夫はないかと考えさせられる。

事物をよく教えることより科学心のおこ

るような環境をつくる、このことが幼児には大切である。

保育も程よく考えてしなければならないことだらう。そこで今月は「健康」と「絵画製作」の二つにスポットを当ててみるとしよう。

○健 康

- ・この中の梅雨期の生活を拾つてみると、天候が悪かたり、気温の変化もはげしいので、幼稚園の行き帰りまで内外共に注意を払い、怪我や事故のないように気をつけなど細かい注意がかかれている。
- ・連日の雨で狭い室に大勢の子どもが活動しなければならない日が多いので、遊具や物の配置をよく考え、なるべく室内や廊下など広く利用し工夫すること。
- ・室内に閉じこめておくと、子どもたちは活動力があり余って大きさわぎになつたりするので、力いっぱい全身運動のできる遊具を選んだら(移動式のものなど便利)、繩その他のおもちゃの応用で一つの遊具も変化して使えるなど、具体的に工夫した成功例があつてゐる。

月刊カリキュラム

○絵画製作

雨が多いこの月は絵をかいたり、物をつくつたりする機会も多いことと思うので、時だ。

この期に創造の意欲と喜を覚えさせるよい

・子どもの感動を大胆に表現させたいこと。

・子どもが描けないと言つたとき、どうすべきだろうか。

・子どもの自信を失わせる理由は何だろうか。

(作者は三つの理由をあげている)

・布の利用、包紙、空箱、その他材料の利用、

・子どもたちが材料や用具を自由に出せる棚など、写真を参考にして造つてみてはどうだろう。

次に七月号をみると、筆頭に波多野完治氏の「望ましい教師の姿」が眼にうつる。氏は視聴覚のことで書かれているが、幼稚園ではまだまだこの面が欠けている。今後

の教師は視聴覚的方法を身につけた人でありたいと言わわれている。私は望ましき教師やいなや！ 一読をすすめたい。

平井信義氏の「幼児のことばについて」はことばの発達や、発達に及ぼす条件、言語障害などわかり易くかかれていて、保育者としては是非よんでおきたい項である。

各保育内容の中では、自然の中の、「試み

たい水あそび」が具体的に面白くかかれて

いる。水ぐるま、さいほん、水でっぽうな

ど。ねれるからと禁止ばかりしないで七月

のこの月こそ思いきってさせてみてはどう

だろうか。

三才児の保育については、土屋真砂子氏

の「理想の環境」、秋田美子氏の「七月の保

育技術」鈴木とく氏の「着衣の習慣」植松

治子氏の「母親指導」がのつていて、三才

児の指導者は是非よんでほしいところであ

る。

* * *

幼児の教育 第五十六卷 第十号

◎ 定価 五十円

昭和三十二年九月二十五日印刷
昭和三十二年十月 一日發行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行者 津 守 真

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願い致します。

一個わずか三〇円で、こんなに幼児の生活を楽しくするものが、他にあるでしょうか？しかも、一生何をするに大切なリズム感をよくするのに、なくてはならないものです。だから、どこの幼稚園にも、保育園にもあるのですが、ぜひ一人に一個を持たせましょう。



1個30円

いろいろな類似品
がありますが、
つぱりこれが一番
工合がよいと言わ
れています。どこ
の楽器店にも（ア
メリカでも）必ず
あります
替紐もあります

株式会社

白櫻社

改訂幼児の教育内容とその指導

お茶の水女子大学附属幼稚園・幼児教育研究会編



(絵画製作)

* 園での幼児の生活に、どんな内容をもりこむか。

* その幼児にどのような指導をしたらよいか。

* このような初版本編纂意図の上に、実践遂行の上で、さらに、掘りさげ、増補・改訂されたのが、本書です。

上製本

A5判352頁
定価320円

フレーベル館発行

古い歴史と新しい編集の観察絵本

キンダーブック

=第12集 第8編 11月号予告=



☆お子さま方の感情と知識を
豊かに育てる絵本☆

おみせやさん

△十一月号内容予告△

おみせやさん

☆はなや 絵・吉沢廉三郎先生
☆ばんやさん 絵・林 義雄先生

☆じてんしゃやさん

絵・河目 恒二先生
☆といやさん 絵・駒宮 錄郎先生

☆おもちゃやさん

絵・西川藤太郎先生
うた・小林 純一先生

☆やおやさん 絵・黒崎 義介先生
☆お店やさんごっこ

絵・武井 武雄先生
うた・青木 茂先生

絵・富永 秀夫先生
☆さんちゃん 文・青木 茂先生

☆きのは・きのみ

指導・丸山 尚敏先生
絵・大田 大八先生

A4判・16頁
毎月付録「つばめの おうち」
定価四十五円
別冊付録「かいものかご」
工作付録「かいものかご」

東京都千代田区 株式
神田小川町 2の5 会社

フレーベル館

電話東京(29) 7781~5
振替口座東京 19640 番